

# 専任教員の教育・研究業績

山 梨 英 和 大 学

[人間文化学部人間文化学科]

(教授)

五味 義夫	.....	1
光岡 征夫	.....	4
上坂 吉則	.....	8
高原 幹夫	.....	10
森本 光彦	.....	11
深津 容伸	.....	12
川口 清泰	.....	14
渡辺 久壽	.....	16
川島 秀一	.....	19
窪内 節子	.....	21
若林 一美	.....	30
関野 陽一	.....	35
荒井 直	.....	36
斎藤 信平	.....	38
戸田 勉	.....	40
小菅 健一	.....	42
須永 範明	.....	43
石田 千尋	.....	45
宅間 雅哉	.....	47

(准教授)

井草 清志	.....	50
横内 滋里	.....	51
石橋 泰	.....	53
田中 健夫	.....	55
青柳 英治	.....	58
韓 曉宏	.....	61

(専任講師)

Danny W. Brown	.....	62
森 稚葉	.....	64
難波 道弘	.....	68

(助 教)	
李 尚 珍 .....	7 1
青 井 久 .....	7 4
太 田 沙緒梨 .....	7 6
小 倉 菜穂子 .....	8 0

[人間文化研究科臨床心理学専攻 (修士課程) ]

(教 授)	
馬 場 禮 子 .....	8 2

[教職課程]

(教 授)	
山 口 勝 弘 .....	8 7

職名 教授	氏名 五味 義夫	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
-------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 講義におけるシラバスの活用、学生の意見の積極的活用と展開  (2) 講義と個別援助、個人指導の統合	2004年～ 現在  2004年～ 現在	基礎科目「人間関係論」及び「人間文化概説」等において、講義の全体計画を事前に示すと同時に毎回の講義終了時には、質問、要望、感想等を200字前後で書くよう提出を求め、学生の理解や状況を把握し次回の講義を調整しながら進めた。  学業不振及び情緒不安定を抱えている学生には、個別カウンセリングによる援助や指導を行った。特に高校までに長期欠席や大学入学後に長期間休学した学生に対しては、定期的に個別カウンセリングを1～2年以上にわたって継続し、学生生活に適応するよう援助した。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> 特になし		
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> (1) カウンセリング あるひとつの試み(聖心女子大学心理学研究会)  (2) カウンセリングからみた親子関係(山梨県立看護大学同窓会(白樹会)総会記念講演)  (3) 現代の青少年の特徴とその理解(相模原市青少年指導者研修会)  (4) 人間関係に起因する生徒の悩みと職員の支援(神奈川県立高校西部地域職員研究会)  (5) ストレスマネジメントの理論と教育課程への位置づけ(山梨県市川三郷町立市川南中学校校内研究会)  (6) カウンセリング事例検討会におけるスーパーヴィジョン(全日本カウンセリング協議会有資格者相談研究会)  (7) カウンセリングの理論と実際(全日本カウンセリング協議会カウンセラー養成講座)  (8) カウンセリング スーパーヴィジョン	2003年6月22日  2004年5月22日  2006年2月23日  2007年2月12日  2007年8月20日  2003年7月6日 2004年7月11日 2007年7月8日  2003年8月9日 2004年7月24日 2006年7月23日 2007年11月3日  2003年度(全5回)	青年期のカウンセリング過程に、青年心理学の知識と精神分析的技法、さらに現象学的視点による新しい試みの提言。研究会は、聖心女子大の教員だけでなく、近隣6～7大学の心理学研究集団から成る。  カウンセリングや心理療法における典型例から特徴的に見られる親子関係の諸問題を指摘しその背景と対策を論述した。  青年心理に見られる「世代性」、「青年性」、「個別性」の観点から、その理解と援助について論述及び質疑応答を行った。  高校生に派生する人間関係の葛藤を中心に、その援助と対応を臨床心理の立場から論述。  生徒及び教職員の緊張や葛藤若しくはストレスを学校教育の中にどのように位置付け、対策をたてるかを資料に基づき解説した。  カウンセリングの実際事例に基づく有資格者の検討会。事例は各領域、各地域から提供された困難事例が中心で、参加者による発表、討論に対する助言と提言を行った。1回につき8時間を要するセッション。  カウンセリングの基礎理論と実際を来談者中心療法と精神分析学の立場から論述し、さらに統合的技法論を論述展開した。  心理カウンセラー養成課程後期における実際

(全日本カウンセリング協議会カウンセラー養成講座)	2004年度(全4回) 2005年度(全2回) 2006年度(全5回) 2007年度(全2回)	事例に基づく検討会。各職域から提供された事例に対する助言指導を行った。1回につき8時間を要するセッション。
(9) カウンセラーの喜びと悲しみ(全日本カウンセリング協議会カウンセラー養成講座第15期修了式記念講演)	2004年11月7日	心理カウンセラー養成課程初期における援助者の基本姿勢について、40年を超える実体験をもとに論述した。心理臨床の可能性と限界について、援助者の基本姿勢を基盤とした。
(10) 音楽とカウンセリング(全日本カウンセリング協議会カウンセラー養成講座第16期修了式記念講演)	2006年11月12日	カウンセリングにおける来談者の「意識や感情の流れ」と、音楽におけるそれとを比較検討し、解釈学的現象学の視点から考察し、新しい傾聴理論を提唱した。
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> (1) 山梨英和大学心理臨床センターの運営と臨床実践	2004年度～現在	外来者に対するカウンセリング相談機関であると共に、大学院臨床心理学専攻の実習機関としての役割を備えた本センターの所長として、管理運営及び教育・指導者として現在に至る。同時に本センターの紀要編集長を兼ねる。

## II 研究活動

著書・論文等の名	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 特になし					
〈その他〉 ○巻頭言 1. 合唱活動と心理臨床	単著	2003年3月	日本教育臨床研究所会報12		
2. 青春 それは“はつらつ”と悩むこと	単著	2003年4月	聖心女子大学学生相談室ニュース19		
3. 人はどこからきてどこに行くのか	単著	2003年10月	聖心女子大学学生相談室ニュース21		
4. 傷ついた癒し人	単著	2006年3月	山梨英和大学心理臨床センター紀要創刊号		
5. 反省的实践としての人間理解	単著	2007年4月	山梨英和大学心理臨床センター紀要第2号		
○書評 1. 福島脩美「自己理解ワークブック」(金子書房)	単著	2007年6月	日本カウンセリング学会会報75		4
○講演記録 1. カウンセリングの	単著	2006年1月	佼成カウンセリング第42号		23-30

喜びと悲しみ					
2. 傾聴愚見ー音楽と カウンセリング	単著	2008年1月	佼成カウンセリング第45号		25-34
○その他					
1. 見て観えず聞いて 聴こえずーカウンセ リング迷論ー	単著	2004年10月	放送大学山梨学習センター 広報誌14		2

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1974年4月～現在	全日本カウンセリング協議会 講師及びスーパーヴァイザー
1995年4月～現在	日本人間性心理学会 設立同人及び査読委員
2001年4月～2005年3月	聖心女子大学心理教育相談所紀要編集委員
2001年4月～2006年3月	放送大学山梨学習センター 心理学研究会顧問
2001年4月～2007年3月	日本教育臨床研究所 参与及び査読委員
2003年4月～2004年3月	日本感情心理学会第11回大会準備委員会 副委員長

職名 教授	氏名 光岡 征夫	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</p> <p>(1) 大学院基幹科目「臨床心理学特論」、 「学校臨床心理学特論」</p> <p>大学院臨床科目「臨床面接特論」、「 学校臨床心理学演習」、「臨床心理実習」</p>	2004年4月 ～2006年3月	<p>テキストを用いるだけでなく、音読、レジュメ作成、説明等の方法で理解を深める方法を用いた。</p> <p>講義に併行して関係ある事例の検討、ロールプレイ、心理テストの実施、関係ある研究会の開催等を行った。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 特になし</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>(1) 公開講座「気づきのためのロールプレイ研究会山口」(テーマ「心と体をリフレッシュしよう」、「プレイバックシアター」(実習))</p> <p>(2) 第2回山梨県教育委員会中学校指導主事研修会・中学校生徒指導研究協議会「スクールカウンセラーの立場からみた学校教育現場」</p> <p>(3) 石和こすもす事例検討会「不登校と教育」</p> <p>(4) 竜王市立A小学校教育講演会「子どもとの接し方ー相談事例からー」</p> <p>(5) 宇部市教育委員会成人学級「家庭や近隣人間関係を考えるーロールプレイを通じてー」</p> <p>(6) 山梨県教育委員会第1回思春期の子どもと向き合う保護者のためのセミナー「不登校を考える」</p> <p>(7) 山梨県総合教育センター主催不登校児童生徒担当・担任及びこすもす教室指導員合同学習会「不登校と教育に関する講演と事例検討会」</p> <p>(8) 山梨県PTA協議会企画「不登校を考える」(講演とシンポジウム)</p> <p>(9) 山梨県社会福祉協議会「介護支援専門員現任研修基礎課程1」における「対人技術援助」(講演と実習)</p>	<p>2003年4月 ～2004年2月 (年8回)</p> <p>2003年6月</p> <p>2003年7月</p> <p>2003年7月</p> <p>2003年8月</p> <p>2004年6月</p> <p>2004年6月</p> <p>2005年3月</p> <p>2005年6月</p>	<p>山梨県光市で行った市民対象のリフレッシュ講座で、ロールプレイやプレイバックの手法を用いて心と身体の両面の統合を図るものである。</p> <p>スクールカウンセラーの立場から見た教育現場の特殊性やそこでの活動の考え方を、生徒指導の先生を中心に紹介した。</p> <p>情緒障害児教室の相談担当を対象にした不登校に関する研修会で、助言指導を行った。</p> <p>保護者から、躰の困難な事例を提供してもらい、それに関する講演やロールプレイを用いて指導や相談を行った。</p> <p>宇部市民を対象として、家庭や近隣社会での人間関係の持ち方について、ロールプレイの技法を用いた講演及び助言指導を行った。</p> <p>山梨県下で不登校児の問題を抱える保護者、教師、関係者を対象に講演を行った。</p> <p>情緒障害児教室の相談員やそこに通う不登校児の担任教師等を対象に、事例を中心とした講演や助言指導を行った。</p> <p>地域の不登校に悩む関係者を対象に、不登校経験者や保護者からの話題提供、並びにコメンテーターによる議論を深めて不登校への理解を進めた。</p> <p>山梨県下で介護支援専門員になって3年経過した人を対象として、カウンセリング技法に関する講義及び実技演習を通じてスキルアップを図った。</p>

(10) 甲府地方・家庭裁判所「メンタルヘルス・カウンセリング講習会」における「性格と気づき」（講演と実習）	2005年11月	甲府地方・家庭裁判所職員を対象とした、メンタルヘルス向上を図るための講演と実技指導を行った。
(11) 山梨県教育委員会第2回スクールカウンセラー協議会「コミュニティ心理学からみた地域社会介入の方法」	2005年11月	山梨県下のスクールカウンセラーと学校教職員を対象として、地域における危機介入のあり方について講演を行った。
(12) 山梨県社会福祉協議会「介護支援専門員実務研修」における「相談面接技術の理解」（講演と実習）	2006年1月	山梨県下で介護支援専門員になって3年経過した人を対象として、カウンセリング技法に関する講義及び実技演習を通じてスキルアップを図った。
(13) 山梨県総合教育センター学校教育相談実践研修会「事例検討会」	2006年2月	総合教育センターで行っている教育相談のうち特に解決困難事例に関する研究会で指導助言を行った。
(14) 山梨県教育委員会第3回思春期の子どもと向き合う保護者のためのセミナー「不登校を考える」	2006年6月	山梨県下で不登校児の問題を抱える保護者、教師、関係者を対象に講演を行った。
(15) 山梨県社会福祉協議会「介護支援専門員研修専門課程Ⅰ」における「対人個別援助技術の方法」（講演と助言）	2006年7月	山梨県下で介護支援専門員になって5年経過した人を対象として、カウンセリング技法に関する講義及び実技演習（ロールプレイ等）を通じてスキルアップを図った。
(16) 富士吉田市教育委員会カウンセリング研究会「対人個別援助技術の方法」	2006年9月	富士吉田市教員に対して、カウンセリング（特に不登校児に対する接し方）について講演及び指導助言を行った。
(17) 山梨県社会福祉協議会「介護支援専門員実務研修」における「相談面接技術の理解」（講演と実習）	2007年1月	山梨県下で介護支援専門員になって3年経過した人を対象として、カウンセリング技法に関する講義及び実技演習を通じてスキルアップを図った。
(18) 山梨県教育委員会第4回思春期の子どもと向き合う保護者のためのセミナー「不登校問題とその対応」	2007年6月	山梨県下で不登校児の問題を抱える保護者、教師、関係者を対象に講演を行った。
(19) 山梨県定時制高等学校合同研修会（ひばりヶ丘高等学校）における「思春期生徒への教師のかかわり」（講演と助言）	2007年6月	山梨県下の定時制高校合同研修会において、不登校児や行動上の諸問題を抱える児童生徒の教師に対して、教育や指導上のあり方について講演を行った。
(20) 山梨県社会福祉協議会「介護支援専門員実務研修」における「相談面接技術の理解」（講演と実習）	2007年8月	山梨県下で介護支援専門員になって3年経過した人を対象として、カウンセリング技法に関する講義及び実技演習を通じてスキルアップを図った。
(21) 山梨県社会福祉協議会「介護支援専門員研修専門課程Ⅰ」における「相談面接技術の理解」（講演と実習）	2008年1月	山梨県下で介護支援専門員になって5年経過した人を対象として、カウンセリング技法に関する講義及び実技演習（ロールプレイ等）を通じてスキルアップを図った。
(22) 山梨県教育委員会第4回思春期の子ども	2008年6月	山梨県下で不登校児の問題を抱える保護者、

と向き合う保護者のためのセミナー「不登校児と親や教師のかかわり」		教師、関係者を対象に講演を行った。終了後には個別相談にも応じた。
4 その他教育活動上特記すべき事項		3における講演会等の対象者は、臨床・教育現場の実務者であり、そこで提供・検討される事例等は社会の現実を直接に反映している。これらの問題を対象者、事例提供者と共に考え、解決していくことは、スクールカウンセラーとしての活動と共に相手の役に立つ側面がある。同時に、専門であるコミュニティ心理学的臨床活動ネットワークを広げ、カウンセリングやコンサルテーション等に関するの方法や知見の検討、研究、更には教育にも有効である。これらの活動は、いわば社会活動、教育・臨床活動であると共に、如何に関われば問題解決に繋がるかを学習・研究する場でもあることを強調したい。

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. 教護院(児童自立支援施設)と集団事例コンサルテーション4年間にわたる児童福祉施設への働きかけ	単著	2004年12月	「山梨英和大学紀要」第3号		45-47
〈その他〉 ○事例検討会発表 1. 中学校でのスクールカウンセラー活動で遭遇した教師不満への学校コンサルテーション事例	単独	2005年11月	山梨県臨床心理士会学校臨床心理士委員会事例検討会		
2. 母親の自殺をめぐる複数の学校への危機介入事例	単独	2006年1月	山梨県臨床心理士会学校臨床心理士委員会事例検討会		
3. スクールカウンセラーの、ある学校崩壊を来たした中学校への関わり	単独	2008年7月	山梨県臨床心理士会学校臨床心理士委員会事例検討会		

## III 学会等及び社会における主な活動

2003年4月～2004年3月	日本コミュニティ心理学会理事
2003年4月～現在	日本コミュニティ心理学会編集委員会査読委員
2003年4月～現在	山梨県スクールカウンセラー
2003年4月～2008年3月	山梨県スクールサポートネットワーク整備事業推進協議会・評価検討委員会委員長
2003年4月～2008年3月	山梨県自立支援教室事業運営委員会委員
2003年5月～現在	山梨県臨床心理士会幹事
2007年4月～2008年3月	山梨県若者自立支援ネットワーク会議委員

2008年4月～現在	山梨県問題を抱える子ども等の自立支援事業委員長
2008年4月～現在	山梨県教育振興基本計画策定委員会委員
2008年4月～現在	山梨県指導が不適切な教員の認定等に関する審査委員会委員

職名 教授	氏名 上坂 吉則	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) Java言語習得の平易化	2003年度～ 現在	本学の様な非理工系の学生が講義科目「プログラミングⅠ」、「同演習」(2007年度から「プログラミング入門演習Ⅰ」、「同Ⅱ」に改名)、「プログラミングⅡ」、「同演習」(2007年度から「プログラミング応用演習Ⅰ」、「同Ⅱ」に改名)、「プログラミングⅢ」、同演習」(2006年度まで)の学習をする際に、数学等の予備知識の不足による学習困難を伴うが、これを回避するために、プログラムの内容を図形描画や処理を中心とした理解し易いものにし、理工系の予備知識がなくても容易に習得できるように講義内容を工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) PowerPointその他による可視化教材  (2) Java言語のプログラム例及び解説書  (3) Java言語の文法を自習できる学習ソフト	2003年度～ 現在  2003年度～ 現在  2003年度～ 現在	講義科目「コンピュータ論」(2007年度から「ITリテラシー」に改名)、「自然科学概論」(2006年度まで)においてプレゼンテーション及びシミュレーションのための可視化教材を作成した。  講義科目「プログラミングⅠ」、「同演習」(2007年度から「プログラミング入門演習Ⅰ」、「同Ⅱ」に改名)、「プログラミングⅡ」、「同演習」(2007年度から「プログラミング応用演習Ⅰ」、「同Ⅱ」に改名)、「プログラミングⅢ」、「同演習」(2006年度まで)のためのプログラム例及び課題プログラムとそれらの解説教材を作成した。  講義科目「プログラミングⅠ」、「同演習」(2007年度から「プログラミング入門演習Ⅰ」、「同Ⅱ」に改名)、「プログラミングⅡ」、「同演習」(2007年度から「プログラミング応用演習Ⅰ」、「同Ⅱ」に改名)、「プログラミングⅢ」、「同演習」(2006年度まで)のためのJavaの文法をコンピュータ上で自習できる学習ソフトを作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の名 称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 1. プロフェッショナル英和辞典 SPED TERRA	共著	2004年4月	小学館	堀内 克明、蟹江 幸博 他	全1863頁中 約30頁

2. Javaで楽しむプログラミング入門	単著	2004年4月	牧野書店		全222頁
3. Javaで楽しむプログラミング応用	単著	2006年5月	牧野書店		全199頁
4. MATLAB+Scilabプログラミング事典	単著	2007年2月	ソフトバンククリエイティブ		全421頁
<b>〈学術論文〉</b>					
1. ベイジアンネットワークにおけるBeliefの $\pi$ - $\lambda$ 表現可能性について	共著	2003年3月	電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会	森山 和美、太原 育夫	1-6
2. Rigorous Derivation of Law of Error in Nonextensive Systems, International Symposium on Information Theory and its Applications	共著	2004年10月	ISITA2004, Parma, Italy	Suyari, H. Tsukada, M.	1-5
3. 図形情報のスペクトル解析・エントロピー解析	共著	2004年10月	数理解析研究所講究録1396	塚田 誠	206-212
4. 量子コンピュータの電気回路による実現	単著	2004年12月	「山梨英和大学紀要」第3号		79-94
5. ヒトはなぜ巧みに要約できるのか？—かたちのスペクトルに基づく考察—	単著	2005年12月	「山梨英和大学紀要」第4号		33-49
6. How to extract rough sketches from a form?	単著	2007年	Proceedings of 2005 Symposium on Applied Functional Analysis, Tokyo, 9-11 November 2005, Yokohama Publishers		211-224
<b>〈その他〉 特になし</b>					

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1999年4月～現在	ICSC(International Computer Science Conventions, Member of Advisory Committee)
1999年5月～現在	計測自動制御学会システム工学部会委員
2003年4月～現在	電子情報通信学会常任査読委員

職名 教授	氏名 高原 幹夫	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)	2005年度～ 現在	講義に用いるスライドをすべて公開し、学生のPCに移す。講義にPCを持参し、ノート代わりに使用することを奨励している。 出席票に「今日受けた講義内容を200字以内で書く」欄及び「講義内容で理解できないことを書く」欄を設け、次回の講義の最初に説明している。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. Considerations on pseudo-lossless optical fibers using Raman amplifiers	共著	2004年6月	NOC2004 Proceedings	T. Fujieda M. Hanawa	22-29
2. 昭和10年代の女子 教育について	共著	2004年12月	「山梨英和大学紀要」第3号	高原 昭夫	149-162
3. 山梨英和大学学生 が挙げた関心のある ニュース	単著	2006年12月	「山梨英和大学紀要」第5号		93-102
〈その他〉 特になし					

### III 学会等及び社会における主な活動

1980年～現在	電子情報通信学会論文査読委員
2000年～現在	電子情報通信学会教科書委員会委員

職名 教授	氏名 森本 光彦	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 新聞記事活用のレポート課題  (2) 現場映像や新聞資料の活用	2005年4月 ～現在  2005年4月 ～現在	「新聞論」、「現代ジャーナリズム」、「国際関係事情」などの講義において、毎週学生に講義で使用した記事の中から関心を持った記事について400字で要約及び意見をまとめさせて提出を求めている。当初は負担に感じた学生も社会や世界の出来事、新聞への関心を次第に深め、文章力が向上し、日本語1級試験に合格した留学生も出た。  「新聞論」の講義開始時に新聞社が制作した新聞社の組織や制作工程などに関するビデオを上映するほか、日本新聞協会などの資料を豊富に活用し、学生が新聞の実像を理解する一助としている。学生は新聞への親近感を持つと同時に、新聞を読む習慣を身に付ける。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
<著書> 特になし					
<学術論文> 特になし					
<その他> 特になし					

### III 学会等及び社会における主な活動

2008年1月～現在	読売新聞社記者教育支援委員

職名 教授	氏名 深津 容伸	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 映像の導入	2004年4月～ 現在	多くの学生に馴染みの薄いキリスト教について、身近でリアルなものとなるよう映像を積極的に導入している。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 聖書謎百科 (共著、荒地出版社、2006年)	2008年4月～ 現在	講義「キリスト教概論」において、左記中の「ヤコブとヨセフの信仰は報われたのか？」の項を活用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) 講演「青年と教会」(日本基督教団山梨分区社会部主催)	2007年1月21日	青年指導のあり方をめぐる講演を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) 学生の自発性や主体性を促す活動	2006年4月	多様化の激しい現代青年の現状に対して、例えば、学生主催によるチャペルを行うことで、自発性や主体性を促すとともに、学生間の絆を強化することに努めている。

### II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉					
1. 新版 総説 旧約 聖書	共著	2007年3月	日本キリスト教団出版局	池田 裕、大島 力、樋口 進、山我 哲雄	309-326
2. 聖書学用語辞典	共著	2008年3月	日本キリスト教団出版局	樋口 進、中野 実	73-74、 98、160、 182-183、 193、351、 384-385
〈学術論文〉					
1. 悔い改めをめぐっ て	単著	2003年11月	青山学院大学同窓会基督教 学会「基督教論集」第47号		33-42
2. 自意識の変遷史	単著	2004年5月	日本聖書神学校キリスト教 研究会「聖書と神学」第16 号		77-85
3. 偶像礼拝(異教礼 拝)をめぐって	単著	2005年11月	青山学院大学同窓会基督教 学会「基督教論集」第49号		27-42
4. 日本人とキリスト 教	単著	2006年12月	「山梨英和大学紀要」第5号		17-24
5. 青年とキリスト教	単著	2008年2月	「山梨英和大学紀要」第6号		9-17
〈その他〉					
○学会発表					
1. 聖書学と日本	単独	2008年5月6日	青山学院大学同窓会基督教		

			学会		
--	--	--	----	--	--

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1970年4月～現在	青山学院大学同窓会基督教学会委員

職名 教授	氏名 川口 清泰	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</p> <p>(1) グループによる翻訳力向上のための工夫</p> <p>(2) コマーシャル、映画シナリオを活用したリスニング力の向上への工夫</p> <p>(3) 大教室における学生の興味の持続に対する工夫</p> <p>(4) 学生による授業評価の結果活用</p>	<p>2004年4月 ～現在</p> <p>2004年4月 ～現在</p> <p>2004年4月 ～現在</p> <p>2004年4月 ～現在</p>	<p>「翻訳演習」及び「翻訳論」においては、学生を2、3名の小グループに分け、互いの訳を比較させる。グループ単位で平常点をつけることにより、責任感や動機付けを高め、学習効果をあげる。最も優れた訳を行ったグループには数ポイントを与え、年度末まで競わせる。ゲーム感覚も取り入れて全体の翻訳力を高める。学生の授業評価でも好評である。</p> <p>「英語コミュニケーション」のクラスで、英米のTVコマーシャルや映画を利用し、英語を単に聞かせるだけでなく、出演者の真似をさせて発音させることにより、能動的に英語に関わることになる。発音の正確さのみならず、俳優たちの雰囲気などを真似させることで、学生の英語への興味は増してゆく。一部の学生には、名場面を芝居仕立てにして発表させる。英会話の学習とレシテーションの技術指導双方を取り入れることにより、学生の満足度が上がっている。</p> <p>100名以上の学生を相手にする「英米表現論」や「英米言語文化概説」では、英米作家の芝居を論ずるのにマイクを使用してノートを読んでも学生の興味を持続させることは難しい。そこでマイクなしで自らが名場面を演じることで、生の迫力を伝える。そのために膨大な台詞を覚えて学生に披露することとしている。時には学生有志に授業以外の練習時間を提供し、演技を教えて共演してもらうこともある。また、自ら芝居を創作して学生に演じてもらうこともある。</p> <p>学生による授業改善のためのアンケート結果を利用して工夫を凝らし、「早口で分かりづらい」、「板書の字が小さすぎる」などについては克服した。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>(1) 英文法教材の作成</p> <p>(2) 英会話教材の作成</p> <p>(3) 演劇教材の作成</p>	<p>2004年4月 ～現在</p> <p>2004年4月 ～現在</p> <p>2004年4月 ～現在</p>	<p>様々な英文法書の傾向を調べ、文法項目ごとに適切な問題を選び、問題集を作る。学生は、市販の文法書では味わえない厳選された問題集に接して動機付けを高める。</p> <p>米国の友人とともに英会話の教材を作成するにあたって、地元山梨の自然や学生が知っている身近な人物を話題にすることで、学習への興味を強く抱くことになる。</p> <p>シェイクスピアや現代演劇の名場面を集めて教材を作成した。自ら書いた論文や訳した研究書を活用し、名場面を解説することにより、学生は教師手作りの教材を楽しみつつ学習する。</p>

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) 授業外での教育活動上の工夫	2004年4月 ～現在	学生有志を募って演劇指導や公演への参加を援助している。自身の講演会に学生を参加させて共演したり、演劇公演における裏方として実体験させるなどの中で、学生に社会勉強を経験させている。また、演劇関係者、戯曲家、照明専門家、発声指導者、イベント・プロデューサーなどを学生に紹介した。

## II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 特になし					
〈その他〉 ○事典 1. 英語文学事典	共著	2007年3月20日	ミネルヴァ書房	木下 卓 他4名	68、157、 206、234- 237、253- 254、270、 299、504、 527、547- 548、571- 572、579- 580、587、 590-592、 606-607、 618、640- 641、650

## III 学会等及び社会における主な活動

2000年4月～現在	演劇団体「舞芸センター」主催シェイクスピア講演会講師 (2001年9月「お気に召すまま」、2002年2月「オセロ」、2002年8月「リア王」、 2003年2月「セールスマンの死」、2003年5月「フォースタス博士の悲劇」、2003年 9月「リチャード3世」、2004年3月「シェイクスピア名場面の解説」、2004年7月 「シェイクスピアの楽しみ方」、2004年8月「オイディプス王」、2005年7月 「シェイクスピアの名台詞を面白く味わう集い」、2006年10月「オセロ」、2007年 1月「オセロ」、2008年5月「シェイクスピアの深読みを楽しむ集い」、2008年11月 「シェイクスピアの4大悲劇の謎」)
2003年6月	都留文科大学講演会「シェイクスピア劇のせりふの迫力と醍醐味」
2004年7月	山梨県総合教育センター高校教員対象講演会「プラクティカル・イングリッシュ・セミナー」

職名 教授	氏名 渡辺 久壽	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 「日本語表現法」における工夫  (2) 「教養演習」における工夫  (3) 「表現文化論」における工夫	2002年4月 ～現在  2003年4月 ～現在  2004年4月 ～現在	1年次生の受講者全員がプレゼンテーションを行うことを最終目標に据えて、実践的日本語運用能力を養成するため、自己紹介、挨拶の方法から発表レジュメの作成方法に至るまでの総合的学習とした。  「教養演習」を初年次教育の最重要科目、つまり高校から大学の学びへの架け橋と位置づけて、新聞を徹底利用し、硬軟あらゆるジャンルを素材に問題意識の抱き方、掘り下げ方を指導した。  留学生の受講者が多数いることから、「千の風になって」、綾小路きみまろの漫談、野口英世の母の手紙、川柳、俳論、名随筆など、旬の素材を織り込みつつ、分かりやすく工夫した。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> (1) 「教養演習」の教材  (2) 「表現文化論」の教材	2003年4月 ～現在  2004年4月 ～現在	「教養演習」では、新聞記事やコラムの中からピックアップしたものを進行度に合わせて内容が高度になるよう組み合わせ、社会の仕組みや心の仕組みに関心を持つよう教材を作成した。  「表現文化論」は、既成の教科書では講義内容に合うものがないことから、受講生の関心を高めるために、古典から最新流行の表現まで、雅と俗、韻文と散文をまじえて、独自の教材を作成した。
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> 特になし		
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> (1) 生涯教育などの普及活動	2003年4月 ～現在	学内外において、「源氏物語」や日記文学などの古典文学に関する公開講座を実施し、40代以上の女性を中心として70代後半までの幅広い層の受講者を対象に毎年内容に関する高い評価を得ている。

### II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 1. 王朝女流文学の 新展望	共著	2003年5月	竹林舎 「制度を越える力ー『蜻蛉日記』の意義ー」	伊藤 博、宮崎 莊平・編	108-120
2. 日記文学新論	共著	2004年3月	勉誠出版 「『土佐日記』の方法と達成ー『一月七日』の条を手	石原 昭平・編	86-101

3. 「夢のうきはし」 鈴木一雄先生追悼集	共著	2004年5月	がかりに」 十文字学園女子大学 鈴木一雄先生追悼集刊行委 員会、「鈴木一雄先生の日 記文学研究」	左記委員会・編	371-384
4. 表現と文体	共著	2005年3月	明治書院 「『あさはかなる女、目及 ばぬならむかし』の喩性－ 源氏物語の芸－」	中村 明、野村 雅 昭、佐久間まゆみ、 小宮 千鶴子・編	276-283
5. 日本古典への誘い 100選Ⅱ	共著	2007年3月	東京書籍 「第八章 日記と紀行文 蜻蛉日記」	諏訪 春雄、山折 哲雄、芳賀 徹、 小松 和彦・編	306-313
6. 王朝文学と仏教・ 神道・陰陽道	共著	2007年5月	竹林舎 「日記文学と仏教につい て-『抗い』というテーマ 性をめぐって」	藤本 勝義・編	138-156
7. 紫式部日記の新研 究	共著	2008年5月	新典社 「『紫式部日記』の私性- 『こまのおもとの恥』の 表象性を手がかりに」	秋山 虔、福家 俊 幸・編	235-251
〈学術論文〉					
1. 『蜻蛉日記』上巻 「桃の節供」の記事 について-その意義 と位置付けを中心に-	単著	2004年3月	山梨英和短期大学日本文化 コミュニケーション学会『日本文芸 論集』第32号		62-79
2. 児を亡くした親の 「こころ」-『土佐 日記』	単著	2008年3月	『解釈と鑑賞』第73巻3号		53-60
〈その他〉					
○新刊紹介					
1. 大倉比呂志 著『 平安時代日記文学の 特質と表現』	単著	2004年4月	日本文学研究会『文学研究 』Vol. 92		152-154
○学会発表					
1. 『蜻蛉日記』の 喩的表現について	単独	2005年7月29日	日記文学研究会第48回大会 (於・大東文化大学)		

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1972年4月～現在	明治大学日本文学研究会会員
1972年5月～現在	中古文学会会員
1974年4月～現在	全国大学国語国文学会会員
1977年4月～現在	日本文学協会会員
1984年8月～現在	日記文学懇話会（現・日記文学研究会）会員
1985年4月～現在	平安文学研究会（現・平安文学の会）会員
2002年4月～現在	日記文学研究会運営委員
2001年度～2005年度	山梨県立文学館主催年間文学講座講師

2004年4月～2006年3月	日記文学研究会編集委員長
2008年10月	甲斐市立竜王図書館主催文学講座講師
2008年10月～12月	大学コンソーシアムやまなし・県民コミュニティーカレッジ講座講師

職名 教授	氏名 川島 秀一	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 日本語表現のための総合学習  (2) 教養演習における実験的工夫  (3) 留学生に対する授業の工夫  (4) 日本語に対するリメディアル教育の実践	2002年4月 ～現在  2003年4月 ～現在  2005年4月 ～現在  2006年4月 ～現在	「日本語表現法」に全身的なプレゼンテーションを導入することで、その実践的活動を通して、総合的な学習方法について工夫した。  1年次における導入科目として、人間文化への総合的な関心を滋養するため、総合的な対話授業を実践し、授業評価で高いものを得た。  専門演習、卒業研究等の授業で、特に留学生のために特別な課題、補習、一般学生と異なった特別な学習スケジュール等の設定によって、高い評価を得た。  日本語の基礎教育として、高校での学習の復習を踏まえて、リメディアル学習を実施した。学生自身の自己確認を含め、高い評価を得た。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> 特になし		
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> (1) 講演「〈小論文〉の指導について」	2006年9月11日	山梨県立身延高等学校における教員研修会において、大学における日本語教育のあり方を踏まえつつ、高校における小論文指導のあり方について講演を行った。高校における小論文指導を“ことばの学び”という全体的経験の場へ戻す所から始めるべきであることを説明した。
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の名 称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
<b>〈著書〉</b> 1. 表現の身体	単著	2005年12月	双文社出版		全310頁
2. 死海のほとりー沸騰する文体	共著	2008年10月	至文堂、「遠藤周作ー挑発する作家」	柘植 光彦・編	245-254
<b>〈学術論文〉</b> 1. 遠くから来た少年ー宮沢賢治「風の又三郎」をめぐってー	単著	2003年2月	「山梨英和大学紀要」創刊号		15-28
2. 帰ってきた少年ー〈書くこと〉をめぐっての問いー	単著	2004年1月	「山梨英和大学紀要」第2号		1-14
3. 越境する身体ー「注文の多い料理	単著	2004年3月	「日本文芸論集」第32号		80-94

店」を読むー				
4. 笛吹川ー原始の想像力	単著	2005年3月	「国文学」第50巻3号	52-57
5. 「侍」瞥見ーある躊躇と疑念	単著	2007年6月	「キリスト教文学研究」第24号	28-34
6. <鹿踊りのはじまり>という物語ー<歩きつづける男>の話	単著	2008年2月	「山梨英和大学紀要」第6号	1-15
7. 想像力の始原ー「わたしが・棄てた・女」の定位をめぐるー	単著	2008年9月	「遠藤周作研究」創刊号	15-34
<b>〈その他〉</b> <b>○書評</b> 1. 川端俊英「島崎藤村の人間観」	単著	2006年9月	「島崎藤村研究」第34号	
<b>○講座</b> 1. 富士には、月見草がよく似合ふ		2006年10月19日	県民コミュニティーカレッジ事業（コラボレーション講座）	
2. 「家」とその根源への遡行		2007年10月20日	藤村小諸記念館「藤村文学講座」、於・小諸市立図書館	
<b>○シンポジウム</b> 1. 文学と死（パネラー）		2008年6月	2008年度日本キリスト教文学学会全国大会（於・星美学園短期大学）	

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1971年4月～現在	日本文芸学会
1976年9月～現在	日本近代文学学会
1976年9月～現在	全国大学国語国文学会
1996年4月～現在	島崎藤村学会理事
2003年4月～2006年3月	日本キリスト教文学学会監査
2006年9月～現在	遠藤周作研究会運営委員
2007年4月～現在	日本キリスト教文学学会役員（学会誌編集委員）
2007年4月～現在	大学コンソーシアムやまなし企画運営委員

職名 教授	氏名 窪内 節子	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
-------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p><b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b></p> <p>(1) 講義、臨床体験グループ作業、シェアリング、振り返りという形式で自己理解及び他者理解を深め、対人関係能力を高めていく体験的授業の実施</p> <p>(2) 臨床現場見学、触れ合い体験を通して臨床心理の仕事を理解する授業</p> <p>(3) 「専門演習」における学生同士のdiscussionを通して、互いに知り合い居心地の良い仲間の形成も目標とする授業の実施</p> <p>(4) 心身一元論を基盤にストレスマネジメントの技法を用いて身体の緊張を緩めることを行い、体験的に心の安定を目指す授業</p>	<p>2002年4月～ 現在</p> <p>2002年4月～ 2006年3月</p> <p>2002年4月～ 現在</p> <p>2007年4月～ 現在</p>	<p>人間関係や援助の相互作用に気づき、有効な相互作用の関係を構築するために体験学習を取り入れ、具体的にはコンセンサス、問題解決、ロールプレイング等の実習を行い、対人援助技法について身につけることを目指す。</p> <p>臨床心理の主な現場である医療、司法、教育福祉の各領域のうち3箇所を選んで訪問した後にレポートを提出する。自らの体験を通して、対人関係上の配慮、倫理感覚等の大切さを体得することも目指している。</p> <p>毎年学生の関心が高い臨床心理学の本をテキストにして順番に読み合う中で、互いの体験などを話し合うことで親近感を高め、年2回の懇親会を開催することで友人形成を援助する授業を行っている。結果、ゼミ参加希望者は常に大学内で上位に位置し、2008年度は1位となった。</p> <p>「生活体験」とは日常生活を送っている時の体験の仕方であり、生き方である。授業では生活体験の仕方を変えるために動作法を用いて、ほっとする安心感、何かやれる気がする自己効力感、自分の身体をいたわる自体慈愛感、他者の努力を実感する共感を体験することを目指す。</p>
<p><b>2 作成した教科書、教材、参考書</b></p> <p>(1) やさしく学べる心理療法の基礎</p> <p>(2) 教育心理学</p> <p>(3) はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学</p>	<p>2003年4月</p> <p>2005年3月</p> <p>2005年4月</p>	<p>カウンセラーの基本姿勢に始まり、心理療法の基本的知識を理解するのに重要な部分に焦点をあて、初心者だけでなくある程度の熟練者にも興味を持って読めるよう、各章にサイコセラピー練習の項目を設け、心理療法に関する各課題をこなしていくことで自然に心理療法の理論を学べる仕組みを取り入れた。</p> <p>教科書としてだけでなく、自学自習を助けることができるよう配慮し、教師がスクールカウンセラーを有効活用することに焦点を当て、教師が行うカウンセリングの方法等、最新の児童生徒の心理理解の方法についても言及した。</p> <p>心の問題を解決する手掛かりを心理学の求めに応じて、メンタルヘルスに焦点を当てて記述している。心の発達に始まり、心理検査や心の病気について記述し、解決法としての心理療法について具体例を交えて解説した。</p>
<p><b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b></p> <p>(1) 「エンカウンターグループ」ファシリテーター (富士市立看護専門学校集中体験</p>	<p>2003年6月 27日～29日</p>	<p>看護専門学校での集団集中体験授業の一環として、構成的エンカウンターグループを行った。</p>

学習)		内容は「自己理解・他者理解・対人関係理解のための体験学習プログラム」で、机上の理論を離れて、人の中で感じることを意識化していく作業を通して自分の対人関係のあり方を深めていった。
(2) 講演「小学校の子どもを持つお母さんのためにー心理カウンセラーからのアドバイス」(敷島町立敷島南小学校道徳教育研究会全体大会)	2003年7月2日	今の時代ほど母親の評価が低い時代はなかった。その中で子育てをしている母親を支援する視点で、産めないのではなく産まない状況こそが問題であることを指摘した。また、トイレトレーニングが遅れていること等を例示して学齢期の子どもに必要な自律性と勤勉性をいかに身につけさせるかについて講演した。
(3) 講演「現代社会における青年期の学生の現状と対応について」(富士市立看護専門学校看護教員研修会)	2003年8月22日	看護専門学校に所属する学生のうち、教員が対応するのに困難な学生に関して講師を交えて今後の対策を協議した。最近の若者の心理から「いい子」の心理、コミュニケーション不全の学生への対処の仕方、パニックを起こす学生への対処法としての認知行動療法等について説明した。
(4) 講演「不登校児童・生徒に関わる連携の持ち方」(山梨メンタルフレンド研究会主催講演会)	2003年11月29日	不登校児童・生徒にスクールカウンセラーとして関わる際に、学校風土の理解と見立ての基にした教職員・保護者・不登校生へのアプローチが重要であることを具体的事例を挙げて説明し、その方法的支援として、環境調整的支援と関係育成的支援について講演した。
(5) 研修会「学生相談の基礎」(第41回全国学生相談研修会)	2003年12月 8日～10日	学生相談に関して初心者である大学教職員、看護師等を対象とした分科会で学生相談の歴史と展望を講義した後、身体をほぐすワークや心の整理のワークを行い、非言語及び言語的ロールプレイ、問題になっている事例の検討を行うことで、学生相談に関する基礎を身につけることを目的とした。
(6) 「事例検討会」指導(都留こすもす教室)	2004年6月25日 同年11月12日	1回目は、適応学級教員と中3の不登校生徒の事例検討を行った。母子家庭、肥満、母親のパチンコ依存症等の問題を抱えている生徒に対して、担当教員が心理的支持を与えながら、具体的な生活習慣を身につけることで肥満傾向が減少していく様が明らかに見られた背景には、母親への指導も含めた関わりにあることを指摘し、今後の方向性を検討した。2回目は、祖母と父親と暮らす不登校生徒の父親の自殺を契機に一層引きこもってしまった生徒に対する関わり方と今後の対応について協議した。
(7) 「エンカウンターグループ」ファシリテーター(富士市立看護専門学校集中体験学習)	2004年7月 24日～27日	1997年から行ってきた構成的エンカウンターグループを、学生の実態に合わせて修正してきたことと、専門学校との連携が深まったことにより、例年のプログラムに加えて「カウンセラーと話してみる」時間を設け、学生の心理的な問題にも接することができて大きな効果を挙げ

<p>(8) 「事例検討会」指導 (石和こすもす教室)</p>	<p>2004年7月25日</p>	<p>た。</p> <p>左記学級で取り組み中の2名の不登校小学生及び中学生の事例について担当者と検討した結果、前者はいじめをきっかけにした学校体制の問題として扱われてきたが、その背景には家族の高い要求水準や本人の評価へのこだわりがあり、そのことを変化させることが重要という見立てがなされた。後者に関しては、離婚や別居による両親の子捨て経験、祖父母の依存症のために本当に安心した居場所がない状況を受け止め、信頼関係の構築が必要であることを検討した。</p>
<p>(9) 事例発表「親から自立して自分らしく生きるまで」(自分の言葉で語る臨床研修会)</p>	<p>2004年10月24日</p>	<p>親の期待通りに生きてきた女性が親の期待の枠内で自分を取り戻し、自分らしく生きるまでの面接過程である。そこには、セラピストとの卒業という別れを経た後、自分の内面を語り出し、結果「自分がある」感じを取り戻した心の軌跡であった。</p>
<p>(10) 研修会「カウンセリングを学んで活かす」(第42回全国学生相談研修会)</p>	<p>2004年11月 21日～23日</p>	<p>2000年の文科省答申で学生相談担当者の専門性を高めていくことを明確に打ち出したことから、一層の研鑽が求められているため、研修会として、各大学の学生相談の実践等に関する情報交換、対応の実際例から学生相談業務のイメージ作りとグループ討議、学生理解のためのロールプレイ及び実習に焦点を当てて学ぶ。</p>
<p>(11) 講演「山梨の子どもを守るー子どもの健康と虐待」(県民コミュニティーカレッジ事業コラボレーション講座)</p>	<p>2004年12月18日</p>	<p>最近の児童虐待の増加について、親の心理と防止に関する市民の関心を高めるためのシンポジウムである。「しつけ」という名の下に親自身が無意識に行っている場合や虐待という程でなくても子どもの心の傷となって、対人関係に問題を残したり、成人してから心的外傷ストレス障害になることについて語った。</p>
<p>(12) 研修会「学生とのよりよい関係作りのためにー自己の振り返りと今後の課題」(山梨県立看護大学看護学部研修会)</p>	<p>2005年1月 5、12、19、26日</p>	<p>4回シリーズで学生との関係を良くするためのグループ討議を行った。要素として、①教員の自己開示、②傾聴のスキル、③コミュニケーションスキルの向上を目指した教員間の意見交換を行った。その中で学生への教授方法、評価の基準等のズレを修正する方向で話し合いを進め、同時に教員間の親密度が増し、今後の学生指導に良い影響を与えた。</p>
<p>(13) カウンセラーとして授業に関わる試みー新入学生の適応支援のために(日本学生相談学会第23回大会口頭発表)</p>	<p>2005年5月22日</p>	<p>新入大学生の不適応に対応するために、必修クラスの教員と連携して授業の中に1時間だけカウンセラーと関わる体験を行った。その結果コミュニケーションを促進するエクササイズの実施は不適応の予防や早期発見に非常に役立つことが明らかになった。</p>
<p>(14) 「エンカウンターグループ」ファシリテーター(富士市立看護専門学校集中体験)</p>	<p>2005年7月 8日～10日</p>	<p>身体を動かすプログラムを中心に人間関係論としての集中合宿体験を計画した。具体的には</p>

学習)		動作法の実習とストーリーを聞いた後に続きの話を自分たちで作りと、それを実際に役割を決めて演じるという体験を通して、架空の役割をこなしつつ、その中で自分と異なる人間関係を体験するものである。学生に好評で刺激的な体験となった。
(15) 「事例検討会」指導 (都留こすもす教室)	2005年7月15日 同年10月14日	1回目は、中1の2学期から不登校になった男子生徒の、深刻さのない、落ち着きのない態度に対して、言葉よりも身体からアプローチへの提案を行い、それを中心に事例検討を行った。2回目は、癲癇症状を持ち異常に異性に興味を持ち触りたがる男子生徒への対応として、性的興味というより皮膚接触による不安回避と捉えて、ヌイグルミ等で落ち着く可能性について検討した。また予め病気を知らされていなかった教室側の今後の対応についても検討した。
(16) 「事例検討会」指導 (山梨県総合教育センター)	2005年11月29日	山梨県の公立小中学校の教員を対象とした学校教育相談実践研修会の事例検討会の講師として、3事例（「体調不良による不登校傾向小学生との母子並行面接」、「社会性の発達に課題を抱えている男子との母子並行面接」、「不登校男子との並行面接」）に関して検討した。ここでは、子どもの場合、身体的な問題、母親自身の精神安定度、それを支える周囲の問題等に焦点を当てて検討し、今後の関わりを探った。
(17) 研修会「カウンセリングを学んで活かす」(第43回全国学生相談研修会)	2005年12月 4日～6日	全国の高等教育機関に勤務する学生相談担当者に対して、学生への対応や実践的な研修として、心の整理の仕方、ロールプレイでの話の聞き方、非言語による印象や、非言語な行動を読む等を体験的に学んだ。講義としては、最近大きく変化している学生の実態や大学内での相談のあり方、心の問題だけでなく、生活全般、発達障害の学生への援助等について取り上げた。
(18) 「エンカウンターグループ」ファシリテーター(富士市立看護専門学校集中体験学習)	2006年6月 30日～7月2日	「自己理解・他者理解・対人関係理解のための体験学習プログラム」として構成的エンカウンターグループを行った結果、「少し気持ちにゆとりができた気がする」、「積極的に取り組もうと頑張った自分を受け止めたい」、「自分を変えて行きたいと素直に思った気がする」等の感想を得た。
(19) 「事例検討会」指導 (石和こすもす教室)	2006年7月14日	ひとつめの事例は、学級に繋がること自体が困難な引きこもり状態にある場合で、検討の結果、生育環境から考えて女性カウンセラーによるアプローチの推進が適当と判断し指導した。ふたつめの事例は、親が学校に対して批判的なことから医療との連携の中で援助していく方向性を合意した。
(20) 「事例検討会」指導 (学校教育相談実践研修会)	2006年11月14日	2つの不登校事例の検討を通して、カウンセラーとしてどのような心理的「意味」を捉えて

(21) 研修会「カウンセリングを学んで活かす」(第44回全国学生相談研修会)	2006年11月 27日～29日	いく必要があるのかを焦点に当てて指導した。その際、情緒的にクライアント側に立った見方をするのではなく、常にカウンセラーとして冷静に観察する重要性を強調することで、学校現場で教師が行う検討会の留意点を説明した。  2000年の文科省答申で、教育中心の大学から学生中心の大学へ、研究から教育へと明確な転換を図り、学生相談の重要性を打ち出した。学生相談の知見を大学全体が共有し、運営に反映していくことが急務となっている今、研修会では学生相談のあり方、学生の理解や接し方等について学んでいくこととした。
(22) 講演「不登校児童・生徒への関わり方」(不登校児童・生徒担任・担当こすもす教室指導員合同学習会)	2007年6月22日	登校拒否の原因論の変遷を説明し、今の生徒のあり方として、自身の幸福を追求することだけに目が行く私事化(privatization)が進み、生徒たちが自己中心的になり、万能感を持て余している状態にあることを述べた。心理的問題を持つ児童・生徒への援助には、「甘え」からいかに脱却させていくかという視点こそが最重要課題であると提言した。
(23) 「エンカウンターグループ」ファシリテーター(富士市立看護専門学校集中体験学習)	2007年6月 30日～7月2日	2007年度にあつては、ミソドラマ、プレイバックシアターにおける自己理解ワーク等を取り入れ、より自分を表現する中で自己理解、他者理解を深められるようプログラムを組んだ。結果、「自分の課題が見えてきた」等の感想を得た。
(24) ボランティア支援員2期生候補者養成講座(社団法人被害者支援センターやまなし研修会)	2007年11月17日	ボランティアとして被害者支援に関わる参加者に対して、カウンセリングに基礎に関する講義を行った。来談者中心療法におけるセラピストの態度3条件を中心に、簡単に精神分析、行動療法にも触れ、心理療法の基礎的な考え方について説明した。
(25) 研修会「カウンセリングを学んで活かす」(第45回全国学生相談研修会)	2007年11月 19日～21日	17名の参加者に対して、①学生の現状や学生対応の理解、工夫を行い、現場に役立てる、②カウンセリング基本技法を学ぶ、の2点を主な狙いとして講習会を行った。1日目は、学習以前の土台が育っていない学生について、大人になるよう支え育てることについての小講義を行った。2日目は、話を聴くロールプレイの後、「マナーの悪い学生への対応」、「命に関わる問題を持った学生への対応」等を話し合った。3日目は、ロールプレイ及び全体を振り返った。
(26) 「事例検討会」指導(平成19年度学校教育相談実践研修会第2回事例検討会)	2007年11月30日	事例「双子の兄弟の不登校に関する両親との並行面接」を取り上げ、双子ゆえの特徴から2名一緒の時間が多くなり、社会性が育み難かった問題を指摘した。同時に、学校現場で教師が行う事例検討会の留意点について講義した。
(27) 「事例検討会」指導	2007年12月13日	不登校児童小6女子及び中3女子の事例を検

(石和こすもす教室)		討した。今後の適応指導学級の対応策として、自尊感情を取り戻す方法として、来談者中心療法の受容と傾聴について、認知行動カウンセリングの認知の変容について説明した。また、対人関係スキルアップとして、構成的エンカウンターグループ、SST、ストレスマネジメント教育を紹介した。
(28) 「エンカウンターグループ」ファシリテーター（富士市立看護専門学校集中体験学習）	2008年6月27～29日	セッションにアクションワーク（従来のプログラムに加えて、ダンスセラピーのひとつとしてフラダンス）を導入した。事前に学生に伝えていたこともあり、以前のような何をするのかという不安を軽減することとなり、学生とファシリテーターとの親密度が増した。
(29) プレエンカウンター講師（富士市立看護専門学校）	2008年10月6日	私たちが出会うストレスや心身のアンバランス、心の問題等は休息しても癒されないことがあるので、自分を癒すための力や方法を身につける必要がある。心理学を理論的背景とした、特にリラクゼーション、動作法を取り上げ、私たちの身体や表現の側面から癒しの問題を体験的に実習した。
(30) 「学校教育実践研修会事例検討会Ⅱ」講師（山梨県総合教育センター）	2008年11月30日	学校教育相談活動の推進や充実に必要な専門知識・技能・態度を習得するために、毎回事例を提出させ、その事例の背景にある心理的意味や心理学的援助方法、学校内外の連携の仕方等についてアドバイスした。
(31) 研修会「学生相談の基礎」講師（第46回学生相談研修会）	2008年11月～12月2日	学生相談担当者のコミュニケーション能力を高めて、「よろず相談」的な開かれた学生支援及び大学他部署と連携・協働できる能力を促進するために、「コミュニケーション能力を高める心理教育プログラムの実施」、「各大学の学生相談の実践等に関する情報交換と最近の学生の心理に関する講義」、「学生への実際の対応例から学生相談業務のイメージ作りとグループ討議」に焦点を当てた学びを行った。
(32) 「事例検討会」指導（石和こすもす教室）	2008年12月9日	不登校生徒2事例への対応について検討し、その際に不登校生徒の心理的背景にある共通点として、感情コントロールと万能感の強さを挙げ、それへの対応として移行対象の提示（ぬいぐるみなど心を落ち着かせる手触りの良い物）と自立訓練報の教示を行った。
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b>		
(1) ラジオ講演「新しい場になじみにくい人のために」（FM甲府「ラジオ無尽・ざっくばらん」）	2003年5月22日	なじみにくい＝不適応を心理学的立場から説明し、子どもの不適応の例として、小学生と中学生の登校拒否を例に、現代の子ども生きにくさをパーソナリティ3名から質問を受ける形で1時間程放送した。
(2) ラジオ座談会「心理カウンセラーってどんな仕事」（FM甲府「ラジオ無尽・	2003年11月27日	本学大学院（臨床心理学専攻）が文科省から設置認可されたことを受けての内容説明と、臨

ざっくばらん」)  (3) ラジオ対談「不登校からの学び」(FM 甲府「生涯学習の時間」)	2008年9月16日	床心理士として経験してきた仕事の喜び、苦しみ、臨床心理士から見た最近の子どもの心などについて座談会形式で放送された。  2007年度統計で山梨県の不登校児童・生徒の発生率が全国一となったことを背景に、地域差故に偏った子どもの情報を解消しにくいこと、教員や地域の人々に対してコミュニケーションの教育が必要なことを話し合った。
--------------------------------------------------------	------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## II 研究活動

著書・論文等の名 称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
<b>〈著書〉</b> 1. やさしく学べる心理療法の基礎  2. バチェラー—結婚しない男たちの心理  3. 教育心理学  4. はじめて学ぶメンタルヘルスと心理学  5. 学生相談における可変的な面接構造の重要性	共著  単監訳  共著  共著  共著	2003年4月  2003年12月  2005年3月  2005年4月  2006年11月	培風館  世織書房  玉川大学出版部  学文社  培風館、「学生相談シンポジウム—大学カウンセラーが語る実践と研究」	窪内 節子・吉武 光世   作間 慎一 編著  吉武 光世 編著  鶴田 和美、斎藤 憲司 共編	全220頁中 110頁  (全208頁)  124-154  全229頁中 61頁  86-90
<b>〈学術論文〉</b> 1. 教育支援活動としての学生相談  2. 学校風土を考慮したスクールカウンセリング活動  3. 教育支援活動における逸話の活用  4. 学生相談の基礎  5. 「甘え」理論の検討と「原初的な気持ちの結びつき」  6. 学校臨床場面における心理査定活用についての一考察	共著  単著  共著  共著  単著  共著	2003年3月  2003年4月  2003年11月  2004年3月  2004年6月  2004年12月	第40回全国学生相談研修会報告書  「山梨英和大学紀要」第1号  「学生相談研究」第24巻第2号  第41回全国学生相談研修会報告書  「山梨英和大学カウンセリングセンター紀要」創刊号  「山梨英和大学紀要」第3号	窪内 節子・吉武 清實   窪内 節子・吉武 清實  窪内 節子・太田 裕一  鈴木 奈緒子・窪内 節子	78-79  1-14  138-147  20-21  1-8  17-30

7. カウンセリングを学んで活かす	共著	2005年3月	第42回全国学生相談研修会報告書	窪内 節子・福盛英明	28-29
8. カウンセラーとして授業に関わる試み	共著	2005年5月	日本学生相談学会第23回大会論文集	鈴木 奈緒子・窪内節子・鎌田 誠	46
9. これからの学生相談活動	単著	2005年12月	「山梨英和大学カウンセリングセンター紀要」第2号		巻頭言
10. カウンセリングを学んで活かす	共著	2006年3月	第43回全国学生相談研修会報告書	窪内 節子・山田敏久	26-27
11. 身体的訴え：新入生の適応支援のキーワード	共著	2006年5月	日本学生相談学会第24回大会論文集	保科 公彦・鈴木奈緒子・鎌田 誠・小野 ゆり・窪内節子	44
12. 青年期の心理療法における自我意識の形成に関する実践的研究－「甘え」理論を基盤にして－	単著	2007年1月	名古屋大学大学院教育発達研究科心理発達科学専攻学位論文		全206頁
13. カウンセリングを学んで活かす	共著	2007年3月	第44回全国学生相談研修会報告書	窪内 節子・平澤孝一	24-25
14. 中国高等教育の現状と留学生問題－中国学生相談学会会長を囲んで－	共著	2007年3月	「学生相談研究」第27巻第3号	国際交流協会・宮崎圭子・窪内 節子	272-286
15. ベテランカウンセラーから若者達への生き方案内	単著	2007年11月	山梨英和大学学生相談室報告書		4-6
16. カウンセリングを学んで活かす	共著	2008年3月	第45回全国学生相談研修会報告書	窪内 節子・森田祐司	22-23
17. 看護学生のための研修型エンカウンター・グループの試み－学生の状態により適応的なグループプログラムを提供するために－	単著	2009年3月	「山梨英和大学紀要」第9号		
<b>〈その他〉</b>					
1. 山梨英和大学のこれから－地域と連携した体験学習の実施	単著	2007年11月	山梨英和大学後援会報「かかはし」		
2. 「連携」重視こそ大学発展の鍵	単著	2008年11月	山梨英和大学後援会報「かかはし」		

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2001年4月～2004年4月	日本学生相談学会常任理事、資格認定委員長
2001年4月～現在	山梨県要請訪問スクールカウンセラー
2002年4月～2004年3月	山梨県新教育ビジョン策定委員会委員
2003年4月～現在	山梨県臨床心理士会幹事
2003年5月17日	第21回日本学生相談学会トークイン「大学カウンセラー資格の意味と価値を考える」企画立案及び話題提供者
同上	第21回日本学生相談学会座長
2004年4月～2007年4月	日本学生相談学会理事、資格認定委員及び国際交流委員会委員
2004年5月15日	第22回日本学生相談学会シンポジウム「大学カウンセラー資格について考える」企画立案及び話題提供者
2004年5月16日	第22回日本学生相談学会座長
2005年5月22日	第23回日本学生相談学会座長
2006年4月～現在	山梨県臨床心理士会事務局長
2006年5月21日	第24回日本学生相談学会座長
2006年11月～現在	日本心理臨床学会理事長推薦甲信越・北陸地区世話人
2007年5月～現在	日本学生相談学会理事、編集委員
2007年5月19日～21日	第25回日本学生相談学会大会準備委員長
2007年9月27日～30日	第26回日本臨床心理学会大会準備委員
2008年5月15日	第26回日本学生相談学会大会ワークショップ講師「学生相談総論－学生相談体制の充実を想定した活動のために」
2008年9月5日	第27回日本心理臨床学会準備委員会企画シンポジウムシンポジスト及び事例研究司会者
2008年10月～現在	山梨県総合計画審議会委員

職名 教授	氏名 若林 一美	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 「教育と福祉」 (立教大学)	2007年度後期	受講者数201名。学生アンケートによると、授業の進め方については、聞き易さ、授業内容の量、ねらいの明確さ等、主な項目について、「大いにそう思う」、「そう思う」が8割以上となっている。「解り易い授業」、「新しい考え方・発想」の評価も8割以上であり、大教室の授業であるが、こちらの意図が十分に理解されている。漠然とした「いのち」について考える授業であるため感性の陶冶も含まれる授業の中では体験者の証言や映像の資料も使用するが、学生の評価によっても理解度が深まったことが記述されている。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) いのちのメッセージ-生きる場の教育学 (単著、ナカニシヤ出版、全226頁)	2008年7月	「生と死」、「いのち」ということを大学教育の中で取り上げるようになってから20年になる。子どもたちのいじめや自死の増加等の問題が深刻化し、「自らのいのち」、「他者のいのち」を思いやること、教育の現場で取り上げることの必要性が認められてきているが、これまで系統的な教科書は存在しなかった。本書では20年の授業実践の中で取り上げた教材や題材、学生からの感想も含め、総括的にまとめたものである。実際の指導現場においても参考になるものである。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) 悲しみを通して見えること-青少年の心 を考える (山梨県 青少年育成甲斐市民会議)	2008年7月	自殺率の高い山梨県の現状を踏まえ、いじめ、不登校、リストカットといった問題をこれまで大学の講座の中で取り上げてきた経験から講演を行った。対象は山梨県青少年総合対策、青少年育成山梨県民会議等社会教育に関わる教職員。
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 1. 自殺した子どもの 親たち	単著	2003年1月	青弓社		全250頁
2. 生と死のコミュニ ティー	単著	2005年3月	有斐閣、コミュニティ福祉 学入門「地球の見地に立っ た人間福祉」	岡田 徹、高橋 紘 士 編	44-57
3. グリーフワーク 和解への道のり	単著	2008年1月	一橋出版、いのちに寄り添 う道	生と死を考える会編	164-175

4. 遺族のケアについて	共著	2008年7月	静岡新聞社、ケアする人のケア	静岡ボランティア協会編	84-126
<b>〈学術論文〉</b>					
1. コミュニケーションとしての食	単著	2003年6月	メディカルレビュー社、「栄養評価と治療」20巻3号		49-50
2. 遺された人たちのグリーフマネジメント	単著	2005年5月	至文堂、「現代のエスプリー自殺と未遂ーそして遺された人たち」		50-59
3. be thereー共にあること	単著	2005年11月	青梅社、緩和ケアVol. 15 No. 6		598
4. 遺族の会の活動を通して	単著	2007年3月	山梨県精神保健協会、「精神保健」第22号		11-12
5. 遺族の悲しみを支えるということ	単著	2007年7月	浄土真宗本願寺派育成研修部、「伝道」No. 69		6-9
6. 遺族の悲しみを通して見えることー死別の悲しみと遺族のケア	単著	2007年9月	旭川精神衛生協会、旭川精神衛生第83号		3-24
7. 予期悲嘆と死別後の悲嘆について	単著	2008年4月	メディカルレビュー社、「がん患者と対症療法」		32-35
<b>〈その他〉</b>					
○著書の入試問題としての採用					
1. 穏やかに死ぬということ (主婦の友社・1999年発行)		2006年度	埼玉大学教育学部A0入試		
2. 死別の悲しみを超えて (岩波現代文庫・2004年発行)		2006年度	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程		
○インタビュー記事					
1. 未来創造	単著	2005年 ～現在	聖パウロ女子修道会、「あけぼの」掲載 テーマ「平和といのち」(次世代に伝えたいことを女性たちの証言を通して連載する)	・2005年 高里 鈴与(沖縄基地軍隊を許さない行動をする女たちの会) 岡部 伊都子(作家) 小禄 信子(辺野古の女性)、仲間 美智子(金武人権を考える会)、新谷 英子(ひとり芝居)、井上 弘子(平和をつくる子ども交流プロジェクト) シスター・ベアトリクス・アヒテン(全米女子修道会総長)	

				<p>大石 芳野(カメラマン)  ・2006年  土井 たか子(憲法行脚の会)、坂上 香(映像作家)、ウシヤ・テイケシユ(やより賞受賞)  中原 道子(アジアの政治)、ペン・セリン(日本文学のカンボジア語訳)、大橋 弘枝(聴覚障害のミュージカルスター)  糸数 慶子(沖縄の平和運動家)、坪井 節子(子どもの権利弁護士)、津島 祐子(作家 火の山)、古居 みずえ(「ガターパレスナの詩」監督)、高山 真樹(俳優座 9条の会)、せんぼんよこ(映画監督)</p> <p>・2007年  斎藤 とも子(胎児被爆)、山本 潤子(やよりジャーナリスト賞受賞)、大森 安恵(日本糖尿病・妊娠学会名誉会長)、海南 友子(ドキュメンタリー作家)、江口 八千代(病児の支援)、桂光子(識字教室)、川上 リツエ(漢点字)  マニー・テニス(パックスクリスティ インターナショナル)、金 明淑(牧師)、パトリア・アルダナ(IBBY会長)、コロン・えりか(声楽家)、小菅 信子(石橋湛山賞)</p> <p>・2008年  ヤスマラ・ジュハニッチ(「サラエボの花」監督)、クリスティ・ゴダ(「君の涙 トナリに流れ ハンガリー1956」監督)、大藪 順子(性犯罪被害者)、石井 摩耶子(日本YWCA会長)、兼松 左知子(東京都婦人相談員)  城戸 久枝(中国残留孤児2世作家)、鷹見 有紀子(リハビリ、名古屋自死遺族の会代表)  高遠 菜緒子(平和運</p>	
--	--	--	--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

				動)、坂田 雅子(「花はどこへ行った」映画監督)、春風 みお(被爆体験を腹話術で伝える)、宮下 忠子(山谷地区の元医療相談員)
--	--	--	--	-----------------------------------------------------------------

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

〈学会等における活動〉	
1972年～現在	日本社会教育学会会員
1980年～現在	International Work Group on Death, Grief and Bereavement会員
1993年～2007年12月	学校法人立教女学院 評議委員・理事
1998年～現在	Illness, Crisis and Loss board member
2003年4月～現在	学校法人山梨英和学院 評議員
2005年4月～2007年3月	山梨県犯罪被害者支援センター準備会委員(事務局 山梨県警察本部警務課犯罪被害者対策室)
2007年4月～現在	21世紀社会デザイン学会会員
2008年7月～現在	山梨県いのちのセーフティーネット連絡協議会委員(山梨県福祉保健部)
〈社会における活動〉	
2004年1月	静岡県立がんセンター講演会「末期医療についてー患者と家族の思いから」講師
2004年2月	郡山市教育委員会講演会「青少年の心について」講師
2004年3月	宮城県仙台国立病院記念講演会「ターミナルケアについて」講師
2004年6月	日本ホスピス在宅研究会神戸大会講演「遺族の悲嘆」講師及び「グリーフケア部会」司会
2004年7月	生と死を考える会講演「グリーフワーカーと和解への道のり」講師
2004年8月	秋田生と死を考える会講演「自死のグリーフについて」講師
2004年9月	日本カトリック会館テレビ番組(30分)「遺族の悲嘆について」
同上	日本社会教育学会「いのちの教育」分科会への参加
2004年12月	神戸ひまわりの会10周年記念講演会「遺族の悲嘆について」講師
2005年1月	ピア神奈川被害者支援の会シンポジウム「子どもの死とグリーフ」講師
2005年2月	東京都福祉局・社団法人東京都医師会ターミナル研究会「死別の悲しみとグリーフケア」講師
2005年4月	広島・園光寺学習会「愛する人の死と悲嘆」講師
2005年5月	いのちの電話「自死のグリーフ」講師
2005年7月	立教女学院・杉並区合同講座「遺族の悲嘆とケア」講師
2005年10月	横浜朝日カルチャーセンター「遺族のケア」講師
同上	群馬いのちの電話「遺族のケア」講師
2005年11月	朝日カルチャーセンター東京「自死遺族のケアについて」講師(全2回)
2006年1月	川崎市民アカデミー「高齢者の自立と尊厳ー自分を知り、自分を変える」講師
2006年2月	静岡・宝泰寺「グリーフワーク」講師
2006年3月	財団法人たんぼぼの家・東京YMCA専門学校「自分と出会う・他者と出会う」講師
2006年5月	千葉いのちの電話「自死遺族のケアー子どもを亡くした後で」講師
同上	難病の子ども支援全国ネットワーク(東京)「遺族のグリーフケア」講師
同上	山梨県放射線技師会・山梨県立中央病院「終末期医療について」講師
同上	山梨大学同窓会微典会「芙蓉会」記念講演「悲しみを通してみえること」講師
2006年6月	第9回SIDS国際会議「Grief of the family-couples' grief」講師
同上	山梨県立甲府第一高等学校模擬授業「悲しみはやさしさ」講師
同上	いのちの電話「死ー身近な人の死をどう支えるか」講師
同上	静岡・宝泰寺「グリーフケア」講師
2006年7月	難病の子ども支援全国ネットワーク(仙台)「遺族のグリーフケア」講師
同上	カトリック真生会館講座「子どもを亡くした親とのかかわりから」講師
2006年10月	浜松いのちの電話「自死遺族のケア」講師
同上	山梨大学医学部講演会「遺族の悲嘆とグリーフケア」講師
2007年1月	群馬県富岡市社会福祉協議会あったか健康フェア「悲しみはやさしさ」講師
同上	被害者支援山梨・山梨県警察本部警務課「相談員のメンタルヘルスについて」講師
2007年2月	東京都福祉局・社団法人東京都医師会ターミナルケア医療従事者研修会「死別の悲しみとグリーフケア」講師

同上	静岡ボランティアセンター・静岡精神保健福祉センター「悲しみはやさしさ」講師
同上	旭川のいのちの電話・旭川精神保健福祉センター「遺族ケア」講師
同上	浜松ボランティアセンター「遺族グリーフとケアについて」講師
2007年1月～2月	横浜朝日カルチャーセンター「遺族のグリーフケア」講師
2007年5月	いのちの電話「死ー身近な人の死をどう支えるか」講師
同上	山梨県看護協会「人が人を支えるーケアの心について考える」講師
2007年7月	大阪グリーフケア研究会「子どもの死ーちいさな風の会の活動を通して」講師
2007年8月	静岡県ボランティア協会「ひとりじゃないよーケアする人のケアを学ぶ」講師
2007年9月	西本願寺「国際自殺予防デー 自死遺族の悲しみ」講師
2007年11月	山梨英和大学大学院第3回臨床心理講演会「遺族の悲嘆とグリーフケア」講師
2007年12月	鳥取県米子てんかん協会・鳥取大学医学部「遺族の悲しみについて」講師
同上	日本臨床死生学第13回学会基調講演「子どもの死とグリーフ」講師
2008年2月	西本願寺安居講師事前学習会「予期悲嘆とグリーフケアについて」講師
同上	西本願寺大阪北御堂「自死遺族のケア」講師
同上	曹洞宗泉岳寺研修会「遺族ケア」講師
2008年2月～3月	横浜朝日カルチャーセンター「遺族のグリーフケア」講師
2008年5月	山梨県青少年育成カウンセラー会40周年記念講演会「青少年の心について」講師
〈対談他〉	
2005年5月	「現代のエスプリ2005年6月」座談会「自殺予防の新しい動向ーポストベンションについて」(日下 忠文、斎藤 友起夫、若林 一美) 5-30
2007年3月	「立教2007年春」対談「立教ヒューマン・コラボレーション」(森 秀樹 立教大学現代心理学部教授) 68-75
2007年5月15、16日	NHKラジオ深夜便「悲しみを分かち持ってー子を亡くした親の会の20年」(各45分全2回)
2007年10月	「ラジオ深夜便こころの時代」第5号(月刊「ラジオ深夜便」特別編集)に掲載 (111-121)
2007年11月	ラジオ深夜便CDコレクション「悲しみを分かち持って」
2008年6月	がんの子供を守る会平成20年度定期総会第4分科会「子どもを亡くした両親のために」助言者

職名 教授	氏名 関野 陽一	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) 特になし		
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 1. 新訂 専門資料論	共著	2004年12月	東京書籍		13
〈学術論文〉 特になし					
〈その他〉 ○発表 1. 大きな変革の中で 専門図書館に求めら れる役割	単独	2006年8月	専門図書館協議会セミナー		

III 学会等及び社会における主な活動

2003年4月～2006年4月	富士見市図書館協議会委員長
2005年6月～現在	記録管理学会 事務局長
2007年4月～現在	大学コンソーシアムやまなし図書館ワーキンググループ座長

職名 教授	氏名 荒井 直	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	---------	------------------------

## I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 学習意欲維持向上のための工夫	2002年4月 ～現在	講義では毎回の感想カードや、半期に数回の小エッセイのうち授業で取り上げて紹介または検討すべき質問などがあった場合には、学生の成績に点数として反映させること、語学のクラスの場合は半期で10回程度の小テストを成績に反映すること、学期末考査の成績は全体の半分から3分の1程度の重みしかないことを事前にアナウンスし、学生の日常的な学習意欲の維持と向上を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 補助教材の作成	2006年4月 ～現在	語学のクラスでは時間数不足を補うため、また、基本的文法や日常的なコミュニケーションレベルの文章が主体の教科書を補う文学的・哲学的な、あるいはヨーロッパの知性を反映しているようなドイツ語の名句・名文のハンドアウトを作成し(週に5文章)、暗証させてテストで定着を図った。講義でも、扱う問題を別の角度から照射するようなハンドアウトを配付して学生の知的水平線の拡大を図った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) 県民コミュニティーカレッジシリーズ分 担講座「オデュッセウスの旅/パウロの旅」	2004年6月	地中海を舞台にした虚構の人物の旅と実在した人物の旅、すなわちギリシア叙事詩の英雄オデュッセウスの「帰還(ノストス)」の旅とパウロのキリスト教伝道の旅、その夫々のあり方を通して、ヘレニズムとヘブライズムの特質の一端について考察した。

## II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. 『蛙』の蛙についての一考察—「アゴーン」場面のディオニュソスとの関連で	単著	2004年3月	岩波書店、「西洋古典学研究」52号		32-44 (英文要約 152-154)
2. カオス的な異郷と旅するために	単著	2006年7月	ペディラヴィウム会、「ペディラヴィウム ヘブライズムとヘレニズム研究」59号		1-10
〈その他〉 ○書評					

1. Colin Austin & S. Douglas Olson, eds, Aristophanes, Thesmophoriazusae.	単著	2006年3月	岩波書店、「西洋古典学研究」54号 Pp. i-cvi+363, Oxford: Oxford University Press, 2004		121-124
○訳、脚注、解説 1. アリストパネース「テスモポリア祭を営む女たち」	単著	2009年1月	岩波書店、「ギリシア喜劇全集第3巻アリストパネースⅢ」	久保田 忠利、中務哲郎 編	

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1990年～現在	日本西洋古典学会会員
2004年～現在	山梨県民コミュニティーカレッジ事業運営委員会委員
2006年度	山梨県民コミュニティーカレッジ事業プログラム作成部会長

職名 教授	氏名 齋藤 信平	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

## I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 授業におけるマルチメディア技術の利用 ①「英米文化論」における利用  ②「英米表現文化論Ⅱ」における利用  ③「表現文化論」における活用	2003年～現在  2004年4月～ 2005年3月  2005年4月～ 2007年3月	建築や絵画などの多様な領域を扱うために、プロジェクターを活用して具体的な映像を数多く示し、理解を深めつつ授業を展開した。  絵画における表現形式の変遷を理解させるために、映像で作品を示し説明することで、学生の興味関心を持続させることに寄与した。  世界観の変遷とその表現としての絵画作品をより理解させるために、多くの図版や作品を例示しながら講義を行うことで、効果を挙げた。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> (1) 講義用教材の作成 ①「英米文化論」のための教材  ②「英米表現文化論Ⅱ」のための教材  ③「表現文化論」のための教材	2003年4月  2004年4月  2005年4月	英国文化を都市、建築、庭園、絵画など多方面から扱い、特徴を包括的に理解させることを目的に作成した。A4版55ページ  近代の成立過程及び世界観や美意識の変遷を辿るために、イタリア・ルネッサンス期から18世紀英国までを概観する教材を作成した。A4版48ページ  ヨーロッパにおける世界観の変化と美術史の流れの関連性を解き明かすために、「神・自然・美」をキーワードとして包括的に取り扱った教材を作成した。イタリア・ルネッサンス期から20世紀抽象絵画の理論的背景と作品の解説までを扱っている。A4版42ページ
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> 特になし		
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> (1) カナダ・オンタリオ州ウォータールー大学セントポールカレッジにおける中期留学プログラムの実施	2008年 5月～8月	左記の相互交流協定締結校における3箇月間の留学プログラムを企画し、第1期生となる14名の学生を引率、現地指導の一翼を担った。今回の成功により、本プログラムが本学の教育課程における中心的存在のひとつとなった。

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. The Transition of English Aesthetic Sense in the Eight-	単著	2005年12月	「山梨英和大学紀要」第4号		75-87

eenth Century (1): To Anthony Ashely Copper, the Third Earl of Shaftesbury					
<b>〈その他〉</b> ○研究発表 1. 自然・絵画・ベケット 2. シャフツベリーの 審美観とジョンソンの 倫理観	 単独  単独	 2003年12月  2007年5月	 第22回ベケット研究会  日本ジョンソン・クラブ		

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1990年4月～現在	日本英文学会会員
1998年～現在	ベケット研究会会員
2006年4月～現在	日本ジョンソン・クラブ会員

職名 教授	氏名 戸田 勉	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	---------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) マルチメディア (CALL) 教室を利用した語学教育  (2) マルチメディア機器を利用した講義	2003年4月～現在  2003年4月～現在	CALL教室を積極的に活用し、実践的なコミュニケーション能力の養成に取り組んだ。  講義において、マルチメディア機器を積極的に活用し、学生の理解を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 英語ニュースを利用したリスニング教材の作成	2006年4月～現在	英語ニュースの映像と音声を学生に提示し、プレゼンテーションソフトを活用してその内容について学生に解答させる教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. ユダヤ人としてのレオポルド・ブルームーアイルランド、民族主義、反ユダヤ主義(2)ー	単著	2003年2月	「山梨英和大学紀要」創刊号		29-40
2. 「ヘリオトロープ」とは何か	単著	2003年6月	日本ジェイムズ・ジョイス協会、「Joycean Japan」第14号		72-81
3. The Shadow of the British Empire in "Ivy Day in the Committee Room"	単著	2004年12月	「山梨英和大学紀要」第3号		119-130
4. エグザイルの系譜ーStephen Dedalusの孫たちー	単著	2006年1月	研究社、「英語青年」2006年1月号		11-13
5. The Seating Arrangement	単著	2006年6月	日本ジェイムズ・ジョイス協会、「Joycean Japan」第17号		46-51
〈その他〉 ○学会発表 1. Symposium on Ulysses(Episode6)	共同	2005年6月	日本ジェイムズ・ジョイス協会第17回大会、於・青山	Takashi Okuhara Anne Fogarty	

2. ジョイスと都市	共同	2007年6月	学院大学 日本ジェイムズ・ジョイス協会第19回大会、於・青山学院大学	Kazuhiro Doki Tsutomu Toda Kumiko Yamada 吉川 信、平野 嘉彦、宮田 恭子、戸田 勉	
○翻訳 1. ジョン・マクハガン「男の事情、女の事情」	共訳	2004年6月	国書刊行会	奥原 宇、清水 重夫、戸田 勉	29-48 (担当「僕の恋と傘」)
2. アントニー・トロロープ「アントニー・トロロープ短編集 I 『電信局の娘』」	共訳	2004年8月	弓書房鷹プレス	市川 薫、清水 明、高倉 章男、津久井良充、戸田 勉、向井 秀忠、谷田 恵司	113-144 (担当「バリモイのジャイルズ神父」)
○書評 1. Clive Hart, James Joyce's Dublin(2004)	単著	2005年6月	日本ジェイムズ・ジョイス協会、「Joycean Japan」第16号		62-63

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1984年4月～現在	日本英文学会会員
1989年6月～現在	日本ジェイムズ・ジョイス協会会員
2000年6月～現在	日本ジェイムズ・ジョイス協会事務局 (会計)
2003年4月～現在	IASIL JAPAN会員

職名 教授	氏名 小菅 健一	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 視聴覚教材の使用による授業内容の工夫	2002年4月 ～現在	「現代文化論」、「文化記号論」などの表象文化の問題を扱う講義において、DVD、CD、TV番組の録画などを視聴覚教材として用い、カルチャーやサブカルチャーに対する学生の興味、関心を喚起させる多面的な授業を行っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) 「国語力育成」研修会の講師	2007年1月15日	山梨県立甲府城西高校の教職員を対象として、「日本語表現力を向上させるための指導方法」をテーマに、作文、小論文、面接などの際の指導における日本語表現の理論と実践についてワークショップを取り入れつつ行った。

### II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. 小論文教材選択の 醍醐味と困難さー表 現欲求喚起の試みー	単著	2004年5月	東京法令出版、「月刊 国 語」第24巻第3号		4
2. 《言語映像》と《 映像言語》による表 現論の結節点ー押井 守論の前提としてー	単著	2006年12月	「山梨英和大学紀要」第5号		14
〈その他〉 ○社説 1. 時標	単著	2007年10月28日	山梨日日新聞		

### III 学会等及び社会における主な活動

1981年4月～現在	早稲田大学国文学会
1988年4月～現在	日本近代文学会
1989年4月～現在	早稲田大学国語教育学会
1991年4月～現在	昭和文学会
1994年4月～2002年3月	文学会

職名 教授	氏名 須永 範明	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</p> <p>(1) ホームワークを活用した講義内容習得のための工夫</p> <p>(2) 少人数教育の実践</p> <p>(3) 講義と実習を統合した大学院授業科目「心理統計法特論」の実施</p> <p>(4) 小グループ実習形式の活用</p>	<p>2002年4月～現在</p> <p>2002年4月～現在</p> <p>2006年4月～現在</p>	<p>「心理統計」(選択・2、3年次)において講義内容に関する練習問題をホームワークとした課し、次回の授業時に提出させ、次々回の授業に採点結果を返却した。誤りの目立つ問題については授業時間で解説を行った。多くの学生にとって、統計学の概念と手法の理解に大いに役立った。</p> <p>「心理学実験演習1」及び「同2」(選択・3、4年次)において、1クラス20名以下の少人数教育を行った。少人数の利点を生かし、心理学実験の過程や実験レポートの内容についてきめ細かく指導した。これにより、課題数が多いにも関わらず、提出率が高い。学生から難しいと敬遠されがちな心理学実験の方法と論理を習得するうえで大いに効果があった。</p> <p>各種統計手法について実践的活用能力を養うため、講義で解説した後、課外でSPSSを用いて統計分析実習を行う。</p> <p>「社会調査法」(選択・2、3年次)では、調査計画の立案から報告書作成までの一連の調査過程を学生に体験させる。学生を4、5名に分け、調査の各ステップ単位で議論させて内容を決定した。学生は活発に議論し、主体的に調査実習に関与するようになった。意欲を引き出すうえでの高い効果があったといえる。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>(1) 心理学実験演習のための教材</p> <p>(2) こころの科学(共著・東洋経済新報社)</p>	<p>2002年4月～現在</p> <p>2003年5月～現在</p>	<p>知覚実験(重さの感覚尺度)のために標準刺激1個、比較刺激9個で1セットとなる教材を10セット作成した。また得られたデータを対数変換して回帰式を算出するためのシートを作成した。さらに、t検定と<math>\chi^2</math>検定のための計算シートも作成した。これらを演習で用いて、わかりやすく効果的に授業を進めている。</p> <p>大学1年次向けの心理学の教科書として編纂した。心理学の幅広い領域のほとんどを網羅するとともに、最新の知見も数多く盛り込んでいる。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>(1) 統計的データ分析と総計解析ソフト(SPSS)のチュータリング</p>	<p>2003年4月～2008年3月</p>	<p>卒業研究を履修している学部生及び修士論文に向けた研究に従事する大学院生に対して、データ分析の方法及び総計解析ソフト(SPSS)の操作方法について、相談・質問に応じ、助言し</p>

(2) 公開講座の講師	2007年7月	た。そのための時間を授業時間外に設定し、指導を担当している学生に限ることなく実施した。  山梨県生涯学習推進センター主催のキャンパスネットやまなしと本学との提携講座として、社会人受講生を対象に開講した。ストレスによって現実感、さらには生きている実感が弱まってしまう恐れがあることについて、実証的データをういつつ、わかりやすく解説した。
-------------	---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## II 研究活動

著書・論文等の名	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 1. こころの科学	共著	2003年5月1日	東洋経済新報社	西野 泰広、須永 範明 他	125-140
〈学術論文〉 1. 現実感が低下する ときと高まるとき	単著	2004年6月	山梨英和大学カウンセリングセンター 紀要創刊号		9-14
〈その他〉 特になし					

## III 学会等及び社会における主な活動

1985年4月～現在	日本催眠医学心理学会会員
1988年4月～現在	日本心理学会会員
1988年9月～現在	日本社会心理学会会員
1993年9月～現在	日本教育心理学会会員
1993年9月～現在	日本カウンセリング学会会員
1993年9月～現在	日本性格心理学会(現・日本パーソナリティ心理学会) 会員
1995年7月～現在	日本健康心理学会会員
1998年7月～現在	日本アニメーション学会会員
2000年3月～現在	日本学生相談学会会員
2005年7月～2007年6月	社団法人日本心理学会代議員
2006年10月～現在	日本パーソナリティ心理学会編集委員
2008年4月～現在	大学コンソーシアムやまなし企業・高大連携部会委員

職名 教授	氏名 石田 千尋	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) カードレポートの実施	2002年度～ 現在	毎回の授業(特に大教室における大人数での講義形式の授業)の最後に、カードレポート(B6版情報カードを使用)を実施し、授業末に提示する課題に対する回答及び質問や感想を書かせ、回収後にすべてのカードにコメントを付して次の授業時に返却する方法で進めた。受講生の評価は、「毎回レポートを書くのは大変だったが、授業内容が良く理解できた」、「カードを書くのは苦労したが、カードを書くことを意識したので授業に集中できた」、「担当教員から直接コメントを貰えるのが嬉しく、やる気が出た」等であった。これにより学生の受講へのモチベーションの向上が感得できると共に、受講生の理解度を知り、講義内容や方法を改善してゆくことに役立った。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 「全訳 全解古語辞典」(共著、文英堂 鈴木 日出男・編)のうち209項目を執筆  (2) 「王朝文化辞典一万葉から江戸まで」(共著、文英堂、鈴木 日出男・編)のうち記名により8項目を執筆	2004年10月  2008年11月	記名項目206語、無記名項目3語(つち、はふ、まれ)  8語(かみ、くし、すぎ、ねぎ、へび、みこ、やしろ、りゅう)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 1. セミナー万葉の歌人と作品第十二巻 万葉秀歌抄	共著	2005年3月	和泉書院	神野志 隆光、坂本 信幸・編	258-259
〈学術論文〉 1. 柿本人麻呂歌集の〈見立て〉—『万葉集』3129番歌をめぐる(一)—	単著	2003年2月	「山梨英和大学紀要」創刊号		1-14
2. 柿本人麻呂歌集の桜花—『万葉集』三一二九番歌をめぐる(二)—	単著	2004年3月	日本文藝論集第32号		42-61
3. 悲嘆と形象—『万葉集』における死別	単著	2004年12月	「山梨英和大学紀要」第3号		15-34

を嘆く歌ー					
4. 振り仰ぐ人麻呂	単著	2006年11月	明治書院、「和歌文学大系 3 萬葉集(三)」月報		4-6
〈その他〉 ○講演 1. 万葉第一期の歌を 読む		2004年5月7日	朝日カルチャーセンター主 催、於・朝日カルチャーセ ンター藤沢		
2. 万葉集 声の歌の 世界ー初期万葉の歌 々をよむー		2005年3月19日	蕪崎市中央公民館主催、於 ・蕪崎市民会館		
3. 古代の旅ー万葉の 旅の歌を読む		2008年7月18日	山梨県文化協会連合会主催 於・山梨県立文学館		
○シンポジウム 1. 「生涯学習を通し てアジア連合を考え るー日本・韓国・中 国等の人や歴史・文 化をつなぐー」パネ ラー		2004年7月2日	山梨県生涯学習推進センタ ー主催、於・山梨県民文化 ホール		
2. 「富士山の文化的 価値とはー古典文学 の立場からー」パネ ラー		2006年11月12日	山梨県企画部世界遺産推進 課主催、於・山梨県立大学		

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1989年4月～現在	国語国文学会会員
1990年4月～現在	上代文学会会員
1990年4月～現在	萬葉学会会員
2000年4月～現在	古事記学会会員
2004年4月～2006年3月	山梨県生涯学習審議会委員
2004年4月～2006年3月	山梨県図書館審議委員会委員
2005年4月～現在	キャンパスネットやまなし企画運営委員会委員
2005年4月～現在	富士山世界文化遺産山梨県学術委員会委員
2007年4月～現在	やまなし文化学習協会理事

職名 教授	氏名 宅間 雅哉	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 授業内レポートによる理解度の把握及び授業改善への活用  (2) グループ作業を通じた学習効果向上のための取り組み  (3) CALL教室における授業形態の工夫  (4) CALL教室における個別演習教材の採点・添削・返却  (5) 学生による授業評価の活用	2004年4月～ 現在  2004年9月～ 2007年3月  2006年4月～ 現在  2006年4月～ 現在  2002年4月～ 現在	大教室における講義では毎時間、理解できたこととできなかったこと、意見・感想を授業内レポートとして書かせて、平常点として記録し、必要に応じて次回の講義において再説明や回答を行っている。また有意義な指摘を授業改善に活用している。  パソコンで映画制作を行う授業では、クラスを4～5グループに分け、授業時には研究室・教室間の機器運搬、教室の作業環境整備と現状復帰等を、編集作業時には編集に係る諸作業をグループ単位で責任分担して、メンバー相互の協力と綿密な計画・議論による作品制作を行った。  授業時間全体をほぼ3等分し、クラス全体での合同演習、合同演習による教材の概要把握の後に個別演習による詳細把握、最後に完全な個別演習という一連の流れの中で授業を展開し、機械と人間が無味乾燥な関係に終始しないよう配慮している。  CALL教室での個別演習に用いる教材は自主制作で基本的に毎週更新される。解答用紙は毎時間回収して採点・添削し、次回授業で返却して解説を行う。  毎学期終了前に実施される授業改善アンケートの結果は、各授業単位で自己評価を行う。自由記述欄の書き込みを熟読し、次学期以降の授業に役立てている。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> (1) 時事英語リスニングの映像・音声教材作成  (2) CALL教室における演習用教材の作成  (3) 視聴覚教材と連動した講義用レジュメの作成	2000年4月～ 現在  2006年4月～ 現在  2007年4月～ 現在	時事的な内容の英語リスニング教材を、パソコン上で授業時間や授業形態に合わせて編集している。主に映像はMPEG-1、音声はWAVといった汎用性の高い形式に書き出して教材化している。  上記映像・音声教材と併せて、問題用紙・答案用紙・解説用紙をセットにした自主開発教材を原則毎時間作成し、CALL教室における演習で使用している。  テキストを用いない講義では、文字情報に加えて地図、イラスト、表、グラフ、静止画等を盛り込んだレジュメを作成した。これら非文字情報の多くはパソコンからスクリーンに投影して視覚に訴えるよう配慮した。また、紙媒体には掲載できない音声・映像教材もレジュメと連動させる形で使用して学生の理解度向上に活用した。

<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> (1) 2004年度下伊那教育研究会教科別分科会「外国語」での講演  (2) 第32回山梨県私学教育研修会英語科部会での講演	2004年9月28日  2006年8月18日	テーマ「英語の授業を活性化させるためのIT機器やメディアの活用方法についてー動画、音声教材の作成とインターネット上の教材ー」  テーマ「英語のコミュニケーション能力を高めるための工夫」
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> 特になし		

## II 研究活動

著書・論文等の名 称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
<著書> 特になし					
<学術論文> 1. A Study on the Meanings of the Prepositions <i>In, Innan</i> and <i>Into</i> in the <i>Peterborough Chronicle</i> 1070-1154  2. Natural Sequences in the Acquisition of English Morphology  3. A Study in the Meanings and the Forms of the Prepositional Phrases of Time Introduced by <i>On, Aet, To</i> and <i>In</i> in the Parker MS. of the <i>Anglo-Saxon Chronicle</i>  4. 2005年9月11日の総選挙結果はオーストラリアでどのように伝えられたかー現地四紙の記事と社説の比較	 単著  共著  単著  単著	 2003年2月  2004年1月  2004年12月  2005年12月	 「山梨英和大学紀要」創刊号  「山梨英和大学紀要」第2号  「山梨英和大学紀要」第3号  「山梨英和大学紀要」第4号	   Danny Brown、宅間雅哉  	 15-41  87-102  103-130  113-135
<その他> 特になし					

## III 学会等及び社会における主な活動

1986年4月～現在	早稲田大学英語英文学会会員
1988年5月～現在	日本英文学会会員
1988年6月～現在	日本中世英語英文学会会員
1988年9月～現在	東京都立大学中世英語英文学研究会会員

2001年7月～現在	財団法人日本英語検定協会実用英語技能検定二次試験面接委員

職名 准教授	氏名 井草 清志	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
--------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 「現代社会の経済」、「マクロ経済」	2008年4月～ 現在	視聴覚教材を利用して学生の理解を促すとともに小テストにより理解度を随時確認しつつ進めている。毎授業で学生に感想文を書かせる。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 特になし					
〈その他〉 特になし					

III 学会等及び社会における主な活動

	特になし

職名 准教授	氏名 横内 滋里	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
--------	----------	------------------------

## I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 担当科目「ITリテラシー演習1」、「同2」、「マルチメディア演習1」、「同2」における授業内容及び方法の工夫	2003年4月 ～現在	「ITリテラシー演習」においては、入学時アンケートを実施し、さらに教科「情報」に関する入学時の学力を測り、授業計画に活かしている。本科目は、今後の大学における勉学、就職及び将来に関わる基本的スキルを習得するための重要科目なので、全受講学生に対して、レポートはできるまで丁寧に添削、指導するよう努めている。「マルチメディア演習」においては、オリジナルコンテンツの制作を目標に最高水準のデジタル画像編集環境を搭載するソフトを使いこなし、必要なスキルを習得できるよう工夫すると共に学生の自主性、興味関心をも立て且つ高めるよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 担当科目「ITリテラシー演習1」、「同2」における講義用教材の作成	2003年4月 ～現在	社会科学系及び文系の学生に対するIT教育(情報教育)を実施するため、理解し易いプリント冊子等の講義用教材を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) 情報教育研究集会(主催:九州大学他、後援:文部科学省、国立大学情報教育センター協会他)における発表	2003年4月 ～現在	全国国公立大学等の教職員が参加する教育内容、教育方法、教育支援方法等に関して研究協議する情報教育研究集会に参加し、担当している情報教育に関する研究課題について発表している。さらに各大学の情報教育担当教員と意見交換し、最近の動向を取り入れるための情報収集に努めている。
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 なし					
〈学術論文〉 1. 短期大学情報文化学科の情報基礎教育における入学前教育実績の年次推移の分析	単著	2004年1月	「山梨英和大学紀要」第2号		103-114
2. 情報基礎教育における入学前教育実績の影響:10年間の年次推移の分析から	共著	2004年5月	情報処理学会、研究報告 IPSJ SIG Technical Report 2440-CE-74	横内 滋里、片谷 教孝、鳥養 映子、 林 英輔	41-48
3. 情報基礎教育における入学前教育実績	単著	2004年12月	「山梨英和大学紀要」第3号		95-102

の影響：4年制移行後の初期条件の多様化					
4. 「コンピュータに対する印象」の情報教育効果への影響：主成分分析及び相関分析からわかること	単著	2005年12月	「山梨英和大学紀要」第4号		51-60
5. 教科「情報」選択必修化による入学時初期条件の変化	単著	2006年12月	「山梨英和大学紀要」第5号		41-56
6. 教科「情報」導入過渡期における入学時初期条件の変化	共著	2007年8月	情報教育シンポジウム論文集、情報処理学会シンポジウムシリーズ Vol.2007, No.6	横内 滋里、片谷 教孝、鳥養 映子、林 英輔	87-92
<b>〈その他〉</b> ○講演論文集					
1. 短期大学情報文化学科における情報基礎教育	共著	2003年11月	平成15年度情報教育研究集会	横内 滋里、片谷 教孝、鳥養 映子、林 英輔	548-549
2. 情報基礎教育における入学前教育実績の影響：4年制移行で変わったもの	共著	2004年11月	平成16年度情報教育研究集会	横内 滋里、片谷 教孝、鳥養 映子、林 英輔	436-439
3. 情報基礎教育における入学前教育実績の影響：学生の意識との相関	共著	2005年11月	平成17年度情報教育研究集会	横内 滋里、片谷 教孝、鳥養 映子、林 英輔	249-252
4. 情報基礎教育における入学前教育実績の見直し	共著	2006年11月	日本教育工学会第22回大会	横内 滋里、片谷 教孝、鳥養 映子、林 英輔	707-708
5. 新教育課程によって入学者の初期条件はどう変わったか	共著	2006年11月	平成18年度情報教育研究集会	横内 滋里、片谷 教孝、鳥養 映子、林 英輔	249-252
6. 2007年度入学者の教科「情報」に対する否定的感想の増加	共著	2007年11月	平成19年度情報教育研究集会	横内 滋里、片谷 教孝、鳥養 映子、林 英輔	509-510

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

1980年5月～現在	情報処理学会会員
1988年4月～現在	日本教育工学会会員
2003年7月～2004年3月	やまなしITプラン策定協議会委員

職名 准教授	氏名 石橋 泰	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
--------	---------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 「臨床心理実習3」(選択・3、4年次・2単位)	2006年4月 ～2007年3月	心理臨床現場で活躍する人々の業務内容を事前に調査し、発表を通じて参加者全員が共有したうえで現場を訪問する。歴史ある精神科単科病院、県発達障害者支援センター、小中学生を対象とした適応指導教室などとの交流により、臨床心理士から現場の苦労ややりがいを直接学ぶ機会を設け、各現場ごとにレポートを課したところ、学生は新鮮な印象を受けることとなった。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) 県立定時制高校における大学院生によるボランティア活動の指導	2005年1月 ～現在	山梨県立中央高校校長からの依頼により、本大学院生による、当該高校生徒を対象とした教育相談ボランティア活動を実施し、参加学生の指導にあたった。
(2) 私立高校における大学院生によるボランティア活動の指導	2006年10月 ～現在	主に中学時代に不登校経験のある生徒を対象とした教育相談ボランティア活動を実施し、学生の指導を行った。

### II 研究活動

著書・論文等の名	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. 〈他者〉への通路としての痛み	単著	2004年6月	山梨英和大学カウンセリングセンター 紀要創刊号		15-25
2. ユング心理学的観点から見た文化と自然の境界についての一考察	単著	2008年	山梨英和大学心理臨床センター 紀要第3号		12-21
〈その他〉 1. 事例発表「学校での不応児とプレイセラピー」	単独	2006年7月21日	山梨県臨床心理士会学校臨床心理士委員会主催事例検討会		
2. 自主シンポジウム「不登校臨床の諸相と新たな視点Ⅲー発達障害の二次的問題としての不登校対応	共著	2007年9月28日	日本心理臨床学会第26回大会発表論文集	石橋 泰、清水 隆 善	530

一」					
----	--	--	--	--	--

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2005年7月1日	山梨県総合教育センター学校教育相談実践研修会講師
2006年4月～現在	山梨県要請訪問スクールカウンセラー
2006年6月30日	山梨県総合教育センター学校教育相談実践研修会講師
2006年8月21日	山梨県公立学校教員穿孔検査面接試験委員
2007年4月～現在	山梨県教育委員会問題を抱える子ども等の自立支援事業運営協議会委員
2007年5月	日本学生相談学会第25回大会準備委員会事務局長
2007年6月12日	山梨県教育委員会思春期の子供と向き合う保護者のためのセミナー講師
2007年6月28日	山梨県総合教育センター学校教育相談実践研修会講師
2007年7月13日	石和こすもす教室事例研究会講師
2007年8月21日	山梨県公立学校教員穿孔検査面接試験委員
2007年8月24日	山梨県立中央高校教育相談研修会講師

職名 准教授	氏名 田中 健夫	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
--------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 九州大学全学教育科目「心理学：学生期の心理的課題」(選択・1、2年次、半期)における工夫	2005年4月 ～2007年1月	毎授業終了時に実施した小レポートを冊子にまとめて、フィードバック・テキストとして次の授業時に配付した。心理学の概念を学生に実感させる方法としての有効性を、第50回九州地区大学一般教育研究協議会及び日本学生相談学会第24回大会で発表した。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> (1) 勉強につまずいたらー学習、生活相談ー(「AERA Mook 98 勉強のやり方がわかる」、朝日新聞社、172-175) (2) 教材「学び方を学ぶワークショップ」(九州大学学生生活・修学相談室主催) (3) パラサイトシングルの臨床(「迷走する若者のアイデンティティ」第3章第3節、白井 利明 編、ゆまに書房、152-177)	2004年4月10日  2005年5月18日  2005年12月25日	導入ゼミで使用する教材のうち「学習や生活の不安、悩みを解決するために」の項を担当。学習意欲のわからない理由、学年毎の悩みの変遷や相談の受け方等を概説した。 一般学生を対象とした冊子教材で、前期及び後期の授業開始時のワークショップ(計3回)において使用した。 臨床心理士養成大学院の院生及び心理学専攻の高年次学生を対象とした参考書、シリーズ「こころとからだの処方箋」の1冊。現代の若者の問題のひとつであるパラサイトシングルを心理臨床の視点から概説した。
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> (1) IDE大学セミナー講演会「生徒から学生への移行過程における課題」 (2) 山口大学ハラスメント防止研修会「学生相談からみたアカデミック・ハラスメントの機制と対応」 (3) 第13回大学教育研究フォーラム「生徒から学生への移行過程ー学生相談からみえる課題ー」 (4) 不登校児童生徒・担当とこすもす教室指導員合同学習会「心をつなぐ訪問指導(家庭訪問)の在り方」 (5) 私立学校初任者研修中部地区静岡・山梨研修会「カウンセリング実習」 (6) 山梨県専修学校各種学校協会新任教員研修会「青年心理学」	2006年8月29日  2006年10月23日  2007年3月28日  2008年6月10日  2008年8月25日  2008年11月25日	IDE大学協会九州支部主催のセミナーにおいて学生生活サイクルの移行に伴う学生の心理的課題に関する講演を行った。 大学教職員を対象に、教育研究場面で起こりやすいアカデミックハラスメントの機制と対応について講演を行った。 京都大学高等教育研究開発推進センターが毎年実施しているフォーラムにおいて、学生期の移行を踏まえた大学教育の課題について小講演を行った。 山梨県総合教育センター主催の講演会において、適応指導教室における訪問指導と関係者の連携のあり方について講演した。 日本私学教育研究所が開催している新規採用教員対象の研修会で、カウンセリング技法を実習形式で講じた。 専修学校の新任教員に対して、青年期の意味とその特質並びに支援方法などについて講演した。
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> (1) 学内FD講師として、九州大学教育学部、	2003年4月	FD及び研修会は、「学生相談からみた修学上

理学府(部)、工学府(部)、芸術工学部、人間境学府におけるFD、並びに何でも相談窓口相談員、セクシュアル・ハラスメント等相談窓口相談員研修会への参加	～2007年3月	の課題」、「セクシュアル・ハラスメント等の防止」、「キャンパス移転が学生のメンタルヘルスに及ぼす影響」などを内容とした。また、学生生活・修業相談室の一員として、「学生サポートブック」を作成し学内配付した。
(2) 「アカデミック・ハラスメント」防止等対策のための5大学合同研究協議会の一員としての提言のまとめ	2006年3月	5大学の学生相談担当者による協議を経て、「アカデミック・ハラスメント防止ガイドライン作成のための提言」（「定義と分類」を執筆）を作成し、全国の大学に配付した。

## II 研究活動

著書・論文等の名	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
<b>〈著書〉</b>					
1. 学校保健教育支援としての養護教諭と共に学ぶ教育心理臨床	共著	2007年12月	至文堂、「現代のエスプリ別冊『教育心理臨床パラダイム』」	藤原 勝紀	291-295
2. 発達障害の学生との心理療法の課題	共著	2009年3月予定	創元社、「発達障害と心理臨床」(仮題)	伊藤 良子、角野善宏、大山 泰宏	
<b>〈学術論文〉</b>					
1. イギリスの学生相談の動向－1999年～2002年の文献レビューー	単著	2003年11月	「学生相談研究」第24巻2号		181-194
2. いじめを意味づける“物語”についての探索的研究	単著	2003年12月	学生相談(「九州大学学生生活・修学相談室紀要」第5号)		14-25
3. 欧米の学生相談の動向と我が国への示唆	共著	2004年5月	「大学と学生 5月号」第476号	田中 健夫、福盛英明	22-31
4. 新キャンパスへの移行と学生生活(その1)	共著	2005年3月	学生相談(「九州大学学生生活・修学相談室紀要」第6号)	田中 健夫、吉良安之、福留 留美、春日 由美、鹿島なつめ	56-65
5. 新キャンパスへの移行と学生生活(その2)	共著	2006年3月	学生相談(「九州大学学生生活・修学相談室紀要」第7号)	田中 健夫、吉良安之、福留 留美	28-46
6. 新キャンパスへの移行と学生生活(その3)	共著	2007年3月	学生相談(「九州大学学生生活・修学相談室紀要」第8号)	田中 健夫、吉良安之、福留 留美	36-46
7. 学生相談来談者の学年ごとの問題内容と学生期の諸課題	共著	2007年7月	「学生相談研究」第28巻1号	田中 健夫、吉良安之、福留 留美	1-13

8. 学生の相談事例からみた修学上の行き詰まりの様相	単著	2007年12月	「青年心理学研究」第19号		33-50
9. 「学生の相談事例からみた修学上の行き詰まりの様相」への杉村・山本論文に対するリプライ	単著	2008年12月	「青年心理学研究」第20号		
10. 「知ることの制止」と消化過程	単著	2009年2月	「精神分析研究」第53巻1号		
<b>〈その他〉</b> ○翻訳 1. 英国学生相談学会による大学とカレッジのカウンセリングサービスに対するガイドライン—AUCC大学機関への助言サービス2004	単著	2005年3月	「学生相談研究」第25巻3号		237-258

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2000年9月～2008年3月	福岡いのちの電話スーパーバイザー
2005年11月～2007年3月	日本学生支援機構「大学における学生相談体制の整備に資する調査研究会」委員
2006年2月～現在	日本青年心理学会研究委員
2007年6月～現在	日本学生相談学会国際交流委員

職名 准教授	氏名 青柳 英治	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
--------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 視聴覚教育技術の利用	2008年4月 ～現在	パワーポイントやビデオ教材を活用し、授業内容の理解促進を図った。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 講義用教材の作成	2008年4月 ～現在	講義内容に準拠した配付資料を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 1. 「図書館情報学用語辞典」第3版	単著	2007年11月	丸善	日本図書館情報学会 編	52(業務委託)、251(リ カント教育)
〈学術論文〉 1. 企業内ライブラリアンの教育・訓練システムの確立に向けての考察：2つの事例の検討から	単著	2003年9月	「図書館界」Vol. 55 No. 3		146-156
2. デジタル時代に求められる情報専門職の能力と資質：The 94th Annual Conferenceを踏まえて	単著	2003年9月	「専門図書館」No. 201		65-76
3. 第94回Special Libraries Association(SLA)年次大会参加報告：情報専門職のコンピテンシーを中心にして	単著	2004年4月	「びぶろすーBiblos」電子化24号		Web掲載
4. 病院図書館員に求められるコンピテンシー	単著	2005年10月	「日赤図書館雑誌」Vol. 12 No. 1		7-13
5. 企業内専門図書館におけるアウトソーシングに関する一考察	単著	2005年12月	「日本図書館情報学会誌」Vol. 51 No. 4		166-183

6. 企業内専門図書館の活動の推移：統計データと研究テーマを中心として	単著	2006年11月	「図書館界」Vol. 58 No. 4		202-219
7. 専門図書館員における教育訓練の類型化	単著	2006年12月	「専門図書館」No. 220		2-8
8. 企業内専門図書館における情報専門職の職務に関する一考察	単著	2007年9月	「日本図書館情報学会誌」Vol. 53 No. 3		127-146
<b>〈その他〉</b>					
1. アジアの新聞を知るために：その概要とアクセス方法	単著	2003年11月	「アジア研ワールド・トレンド」No. 98		55
2. 統計データにみる開発途上国のメディア事情	共著	2004年3月	「アジア研ワールド・トレンド」No. 102	石崎 えり子	41-43
3. 《書評》菅谷明子著「未来をつくる図書館：ニューヨークからの報告」	単著	2004年7月	「図書館界」Vol. 56 No. 2		100-101
4. アジア諸国のデジタル・デバイド	単著	2004年12月	「アジア研ワールド・トレンド」No. 111		45
5. 《翻訳》シトラ・プラサド著「インドのアーカイブズ事情」	単著	2005年3月	「アジア研ワールド・トレンド」No. 114		20-21
6. 《資料紹介》マティアス・コッホ著「日本の大学所蔵特殊文庫解題目録」	単著	2005年7月	「専門図書館」No. 212		53
7. シンガポールの情報化政策	単著	2005年11月	「アジア研ワールド・トレンド」No. 122		47
8. 「専門情報機関総覧」2006年版の刊行にあたって：最新版の概要とこれまでの歴史	単著	2006年6月	「専門図書館」No. 217		17-23
9. 「専門情報機関総覧」2006年版の特徴と機能	単著	2006年12月	「情報管理」Vol. 49 No. 9		483-488
10. 専門情報機関を活用するためのツール	単著	2007年5月	「レファレンスクラブ」日外アソシエーツ		Web掲載

ル				
1 1. 《資料紹介》 仲本秀四郎編「情報とメディア 科学技術図書館の現在と未来：日本原子力研究所図書館の現場から」	単著	2007年7月	「専門図書館」No. 224	38-39
1 2. 映画の登場人物に見る図書館員のイメージ	単著	2007年8月	「レファレンスクラブ」日外アソシエーツ	Web掲載
1 3. マレーシアの情報化政策：MSCを中心に	単著	2007年10月	「アジア研ワールド・トレンド」No. 145	51
1 4. 図書館サービスにおける色彩効果	単著	2007年11月	「レファレンスクラブ」日外アソシエーツ	Web掲載
1 5. 女性図書館員をめぐる雇用のあり方	単著	2008年2月	「レファレンスクラブ」日外アソシエーツ	Web掲載

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

〈学会における活動〉	
2002年5月～現在	日本図書館研究会会員
2002年5月～現在	日本図書館協会会員
2004年5月～現在	日本図書館情報学会会員
2006年12月～現在	三田図書館・情報学会会員
2008年4月～現在	日本生涯教育学会会員
〈社会における活動〉	
2004年4月～2006年3月	専門図書館協議会調査統計委員会委員
2006年4月～現在	専門図書館協議会事業推進委員会委員

職名 准教授	氏名 韓 暁宏	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
--------	---------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 双方向授業の実践	2008年4月 ～現在	学生の顔を見て話をする直接的なコミュニケーション及びアンケートにより、勉学への意識や理解度をリアルタイムに把握している。また授業計画や準備の段階で学生の意見を多角的に聞き取り、指導案を作成する。こうした双方向授業に学生は素直に反応し動機付けにと繋がることで、講義が活性化していく。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) 新教育課程検討会への参加	2008年4月 ～現在	2009年度開設予定の新たなカリキュラムを検討するうえで、従来なかったビジネス関連のコース設置に向けて各種提案を行った。

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 特になし					
〈その他〉 特になし					

III 学会等及び社会における主な活動

2000年5月～現在	アジア経営学会会員
2001年4月～現在	日本国際開発学会会員

職名 専任講師	氏名 Danny W. Brown	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
---------	-------------------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 授業における工夫	2005年4月 ～現在	外国語科目において、主にダイレクト・メソッド及びコミュニケーション・メソッド <sup>3</sup> を利用している。また2人1組で行うペアワークを用いて、コミュニケーションの中に複雑さを加えている。学生は、テレビ放映のアメリカ映画の1場面を分析したり、You Tubeや教師が弾く演奏に合わせて歌うなどして学ぶことで、抑揚をつけたり、TPRや身体の動きで記憶に残す方法を身につける。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 授業で使用する素材の作成	2005年4月 ～現在	授業で使用するテキスト素材の8割を自分で作成し、その中には会話や多数の練習問題、自分で所有する写真や絵画を注意深く選んで利用したり、コンピュータで制作した画像を取り込んでいる。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. The Use of Vocabulary by Japanese Learners of English in Speaking Tests	単著	2003年度	「山梨英和大学紀要」創刊号		43-63
2. The Motivations of Japanese College Students to Parti- cipate in an English Vocabulary Learning Activity	単著	2004年度	「山梨英和大学紀要」第2号		63-85
3. Natural Sequences in the Acquisition of English Morpho- logy	単著	2004年度	「山梨英和大学紀要」第2号		87-102
4. Motivations for Participation in EFL College Homework	単著	2006年度	「山梨英和大学紀要」第5号		57-76

〈その他〉 特になし					

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

	特になし

職名 専任講師	氏名 森 稚葉	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
---------	---------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 「心理臨床演習Ⅰ」、「同Ⅱ」、「心理検査法」における体験的な講義の工夫  (2) 「心理学研究法」、「発達障害の心理学」、「家族心理学」における教育方法の工夫	2007年4月～現在  2007年4月～現在	心理臨床は、講義だけでなく体験を通して学ぶことが求められる。授業では、カウンセリングや心理検査のロールプレイ、グループワーク、心理検査実習を通して、個々人がカウンセリングや心理検査法について、体験的に理解できるように講義を組み立てている。その際には、各学生が共通した観点から体験を振り返ることができるようワークシートの構成を工夫している。また、その体験をグループワークの中で互いに語り合うという、自らの体験を他者に開く機会を通して、人間の多様性を実感できるよう、個人ワーク、ロールプレイ、グループワークを組み合わせた授業を行っている。  講義科目においては、履修者の学習効果を上げるための工夫を行っている。リアクションペーパーの回収または小テストを行い、授業理解を確認しながら講義を進めることによって、履修人数が多い場合にも双方向的に講義が展開できるように配慮している。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> 特になし		
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> (1) 山梨市公立保育所研修会における講演  (2) 山梨県韮崎こすもす教室(適応指導教室)学習会における講演	2007年7月 2007年12月  2008年6月19日	「保育園における子育て支援」に関して、地域での保育園の開放実践、保育における気になる子どもへの保育実践及び保護者への対処について、連続して講演を行った。  「不登校と発達障害」という演題で、発達障害を持つ不登校生徒に対する理解と対応法に関する講演を行った。
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の名 称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
<b>〈著書〉</b> 1. 徹底図解心理学	共著	2008年7月	新星出版社	青木 紀久代、神宮 英夫・編	114-118、 198-199、 210-211
<b>〈学術論文〉</b> 1. 児童期に起こる問題と心理アセスメント：有用なアセスメントツールの作成に向けて	共著	2003年12月	お茶の水女子大学発達臨床心理学紀要第4巻	岩藤 裕美、井梅 由美子、森 稚葉	27-45

2. 幼稚園～小学校移行期の子どものメンタルヘルス：教師評定と観察によるアセスメントの試み	単著	2004年3月	お茶の水女子大学 21世紀COEプログラムプロジェクトⅡ「幼児期から青年期までのメンタルヘルス縦断研究～心理的援助のためのアウトリーチプログラムの構築～」中間報告書		43-51
3. 教師が気がかりを感じる子どもの学級場面における身体動作と情緒調整—お茶大式学校メンタルヘルス尺度との関連から—	共著	2005年3月	お茶の水女子大学 21世紀COEプログラムプロジェクトⅡ「幼児期から青年期までのメンタルヘルス縦断研究～心理的援助のためのアウトリーチプログラムの構築～」第2次報告書	森 稚葉、朝日 香栄	38-49
4. 仲間関係が希薄に見える子どもの交流の特徴と変遷：お茶大式学校メンタルヘルス尺度と自然観察法を用いた断続的ケース研究	共著	2005年12月	お茶の水女子大学発達臨床心理学紀要第7巻	朝日 香栄、森 稚葉	29-40
5. 子育て広場担当者からの評価	単著	2006年2月	財団法人子ども未来財団 平成17年度児童関連サービス調査研究等事業報告書 インターネットによる子育てサークルのネットワーク化に関する調査研究		39-51
6. 学級観察ビデオを用いたカンファレンスの有用性に関する探索的検討	単著	2007年1月	平成16・17・18年度公募研究成果論文集 お茶の水女子大学21世紀COEプログラム 誕生から死までの人間発達科学		51-60
7. 地域の親ピアサポートリーダー養成プログラム	単著	2007年2月	財団法人子ども未来財団 平成18年度児童関連サービス調査研究等事業報告書 子育て支援におけるコミュニティディベロップメントを目指したアクションリサーチ		62-79
8. 学校メンタルヘルス尺度幼稚園・小学校低学年用の検討	単著	2007年2月	お茶の水女子大学 21世紀COEプログラムプロジェクトⅡ「幼児期から青年期までのメンタルヘルス縦断研究～心理的援助のためのアウトリーチプログラムの構築～」最終報告書		129-134

<p>〈その他〉</p> <p>○コラム</p> <p>1. 軽度発達障害の諸相</p>	単著	2007年5月	(株)みらい、新時代の保育双書 発達心理学：子どもの発達と子育て支援	青木 紀久代・編	62
<p>2. 小学校への移行期にある子どもの心</p>	単著	2007年5月	(株)みらい、新時代の保育双書 発達心理学：子どもの発達と子育て支援	青木 紀久代・編	71
<p>○学会発表論文</p> <p>1. The assessment of child mental health at transition to elementary school</p>	共著	2004年8月	28th International Congress of Psychology Abstract Book	Mori C. Aoki K. Iwafuji H. Yamawaki S. Iume Y.	961
<p>2. 学校コミュニティにおける発達臨床心理学的支援(6)ー小学校低学年児童に対する教育現場での予防的支援の可能性に関する検討ー</p>	共著	2004年9月	日本心理臨床学会第23回大会発表論文集	森 稚葉、青木 紀久代、岩藤 裕美、山脇 澄子、井梅 由美子、櫻井 聖子	255
<p>3. 学校コミュニティにおける発達臨床心理学的支援(8)ービデオを用いたフィードバックカンファレンスの意義についての検討ー</p>	共著	2005年9月	日本心理臨床学会第24回大会発表論文集	森 稚葉、青木 紀久代、武田(六角) 洋子、山脇 澄子、井梅 由美子	430
<p>4. 保育における心理臨床研修の実践(4)ー3年間における「気になる子ども」の様子と対処の変化</p>	共著	2005年9月	日本心理学会第69回大会発表論文集	森 稚葉、青木 紀久代、矢野 由佳子	289
<p>5. インターネットによる親ネットワーク形成の試みー保育園との協働を軸としてー(2)ひろば担当者から見た実践評価</p>	共著	2006年7月	日本コミュニティ心理学会第9回大会発表論文集	森 稚葉、青木 紀久代、富田 貴代子 村木 紘子、平山 敦子、谷田 征子	99-100
<p>6. 保育における心理臨床研修の実践(6)ー研修参加歴・保育歴から見た研修効果の検討</p>	共著	2006年11月	日本心理学会第70回大会発表論文集	森 稚葉、青木 紀久代、矢野 由佳子 富田 貴代子	369
<p>7. Collaboration with nursery spe-</p>	共著	2008年8月	Infant Mental Health Journal, Vol. 29, Issue3A	Mori C. Aoki K. Shimamoto K.	58

cialists and psychologists on childcare support service in Japan -Effect of training of nursery specialists with psychologists on 'noticeable children'			別冊Web版 The 11th World Congress of the world association of Infant Mental Health, Poster Session	Tomita K. Yatsuda M.	
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	----------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------	--

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

〈学会等における活動〉	
2001年～現在	日本心理臨床学会会員
2003年～現在	日本発達心理学会会員
2003年～現在	日本学校保健学会会員
2004年～現在	日本臨床心理士会会員
2004年～現在	日本心理学会会員
2005年～現在	東京臨床心理士会会員
2005年～現在	日本教育心理学会会員
2005年～現在	日本コミュニティ心理学会会員
2006年～現在	日本カウンセリング学会会員
〈社会における活動〉	
2007年4月～2008年3月	平成19年度山梨県特別支援教育体制推進事業 中・西部地域LD等専門家チーム委員
2007年5月～現在	山梨県総合教育センター石和こすもす教室カウンセラー
2007年7月、12月	山梨市公立保育所保育士研修会講師
2007年9月～2008年3月	平成19年度発達障害早期総合支援モデル事業に関わる発達障害の早期発見に関する健診方法研究委員
2008年4月～現在	平成20年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業 中・西部地域LD等専門家チーム委員
2008年4月～現在	平成20年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業 LD等巡回相談員
2008年7月	山梨市公立保育所保育士研修会講師
2008年7月～現在	平成20年度発達障害早期総合支援モデル事業に関わる発達障害の早期発見に関する健診方法研究委員

職名 専任講師	氏名 難波 道弘	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
---------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 教育におけるE-mail使用 ①「基礎情報処理1」及び「同2」(必修・1年次・1単位)  ②「基礎情報処理1」及び「同2」(必修・1年次・1単位)  ③「情報ネットワーク」及び「確率・統計入門」(選択・2、3年次・2単位)、「インターネット入門」(選択・2、3、4年次・2単位)、「情報とアルゴリズム」(選択・2、3年次・2単位)及び「情報セキュリティ」(選択・3、4年次・2単位)  ④研究室Webサイトによる研究室での情報交換及び共有	2004年4月～2007年3月  2004年4月～2007年3月  2004年4月～現在 2004年4月～現在 2007年4月～現在  2004年4月～現在	学生のITリテラシー向上の一環として、課題の提出をすべてE-mailで行わせ、マナーなどを含めた指導により、知識と技術の向上に寄与した。  教職課程(情報科)を履修している学生などにアシスタントさせることにより、受講する学生からも評価が高かっただけでなく、アシスタント自身にも教育実習などに有用との評価を得た。  講義資料をWeb配信することにより、欠席した場合でも自宅からダウンロードして入手できるなど、特に遠方から通う学生に好評である。  研究室の活性化とIT活用機会の増加などを目的として実施し、実際に研究室での活性化に寄与している。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> ①「基礎情報処理1」及び「同2」(必修・1年次・1単位) 「情報ネットワーク演習」及び「確率・統計入門」(選択・2、3年次・2単位)	2004年4月～2007年3月 2004年4月～現在	左記授業科目のために作成したものはすべて実験・実習の手引書である。理論だけでは理解しにくい内容について、実験演習を行うことにより学習効果の向上を認めた。また、学生の報告書作成能力の向上にも寄与している。
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> (1) 自己組織化マップを用いた学生による授業評価の分析(教育システム情報学会30周年記念全国大会)  (2) 演習重点型WBTシステムの開発と評価(教育システム情報学会第31回大会)	2005年  2006年	自己組織化マップモデルを用いて、演習科目「基礎情報処理」において、学生による授業評価データのクラスタリングを行った。さらに、アチーブメントテストの結果から評価と習熟度の関係について考察した。  演習問題を重視したWeb型eラーニングシステムを開発し、講義「情報ネットワーク」においてその評価を行った。その結果、システムに対する肯定的な意見が多数あり、その有用性が示唆された。
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> (1) 卒業研究成果の学会発表 ①WWWを用いた学習支援システムの構築(電子情報通信学会総合大会) ②連想記憶セルラニューラルネットワークを用いた学習者の理解度推定(第2回教育システム情報学会学生研究発表会)	2006年5月  2008年	教育研究活動の一環として、ゼミの卒業研究において顕著な研究成果を挙げた学生に対し、学会で発表するよう奨励している。左記は学生学外で研究発表を行った事例で、特に②の発表については、その内容などが評価され、優秀賞

③ITSのための連想記憶セルラニューラルネットワークの設計と評価（教育システム情報学会第4回研究会）	2008年	を受賞した。
----------------------------------------------------	-------	--------

## II 研究活動

著書・論文等の名 称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉					
1. 複数の記憶テーブルを有する連想記憶セルラニューラルネットワーク	共著	2003年7月	システム制御情報学会論文誌第16巻第7号	難波 道弘、章 忠 川畑 洋昭	321-329
2. セラニューラルネットワークおよびその異常診断への応用－第2報：近傍設計によるセラニューラルネットワークの効率化－	共著	2004年6月	計測自動制御学会論文集第40巻第6号	章 忠、難波 道弘 川畑 洋昭	626-634
3. The Design of Cellular Neural Networks for Associative Memory with Multiple Memory Tables	共著	2005年5月	Proc.of International Conference on Cellular Neural Networks and their Applications	難波 道弘、章 忠	236-239
4. Cellular Neural Networks and its Application to Abnormal Detection	共著	2005年6月	Journal of Information, Vol. 8, No. 4	章 忠、難波 道弘 川畑 洋昭	587-604
5. Cellular Neural Networks for Associative Memory and its Application to Braille Image Recognition	共著	2006年7月	Proc.of World Congress on Computational Intelligence	難波 道弘、章 忠	4716-4721
6. 演習問題を重視したWBTシステムの開発と試行	共著	2006年12月	日本教育工学会論文誌第30巻増刊号	難波 道弘、澤田 隆幸	17-20
7. Estimating Learner's Comprehension with Cellular Neural Network for Associative Memory	単著	2008年7月	Proc.of International Conference on Cellular Neural Networks and their Applications		150-153

〈その他〉 特になし					
---------------	--	--	--	--	--

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2008年7月	CNNA2008 reviewer (第11回セルラニューラルネットワークとその応用に関する国際会議査読委員)

職名 助教	氏名 李 尚珍	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	---------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</p> <p>(1) 宇都宮大学共通教育科目 「朝鮮語入門基礎Ⅰ、Ⅱ」 「朝鮮語入門Ⅰ、Ⅱ」</p> <p>「朝鮮語応用A、B」</p> <p>(2) 山梨英和大学 「韓国語A、B」</p>	<p>2005年10月 ～現在</p> <p>2008年4月 ～現在</p> <p>2008年4月 ～現在</p>	<p>(教育内容) 受講生がハングルに楽しく慣れていくために、文字と発音、基礎的な文法知識を学びながら、韓国の文化、伝統、歴史等にも触れるように工夫している。最初の授業から簡単な挨拶を覚え、毎回ひとつずつ挨拶文を増やしていく。授業のはじめに韓国の歌を10分ほど聞き、その後に声を出して歌詞を読み、再度同じ歌を聴く。毎回繰り返すことによってリズムと共にハングルの発音に慣れ、歌詞に現れる韓国の大衆文化や歴史等が少しずつ理解できる。</p> <p>(教育方法) 「～입니까?」「～입니다」のペアの会話ができるフレーズを用いて、毎回の学習単語を見、書き、聞き、話して覚える。会話の導入は、文法中心の外国語学習でなく、「話せる」という自信を受講生にもたせる。単語は日常会話でよく使われるものを中心にプリントを作成し、毎回練習する。プリント回収、チェックし、次の授業で返し、受講生の今後の自己学習に活用する。文法は会話の中で慣れるようにし、学習内容に合う韓国映画やドラマ等を視聴覚教材として活用し、「使える」、「生きた」韓国語を教授する。諺などの民族の習慣・歴史がわかる言葉を調べさせて、簡単な言葉の中に含まれた民族の思想について、理解を深める。</p> <p>(教育内容) 韓国語は日本語との多くの類似点(漢字語や語順など)を持ちながらも、受身や尊敬などの表現には相違点もある。日本語と比較しながら、韓国語独自の表現力を身につける。</p> <p>(教育方法) 会話に重点を置いた口頭演習を行いながら、韓国語の表現力、応用力を学ぶ。さらに最近人気のある韓国の歌や映画、時事問題に関するドキュメンタリー等のビデオ教材を取り入れ、韓国の文化や歴史、政治、芸能等にも触れていく。</p> <p>(教育内容) 韓国語の成り立ち、文字と発音、基礎的な文法知識を学ぶと同時に、その背後にある韓国の社会事象や文化、道徳、伝統、歴史、思想等にも触れる。</p> <p>(教育方法) 「発音」に重点を置きつつ、ハングルの基本文字40字の読む・書く・聞く・話すの4つの運用能力を学ばせる。最近人気のある韓国の歌や映画、ドラマ等のAV教材を取り入れることによって生きたハングルのリズムにも慣れる。期末テストの時期には、意味は解らなくてもハングルの文字が読めるようになり、簡単な韓国語の挨拶ができるようになる。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 特になし</p>		

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) 人権教育講演会「留学生から見た国際交流」(於・栃木県立小山西高等学校) (2) 「国際交流とは何かを考える」(於・栃木県立栃木南高等学校) (3) 「人権教育とは何か」(於・栃木県立高根沢商業高等学校) (4) 「総合的学習に時間の講演会－平和をどう考えるか」(於・茨城県立八千代高等学校)	2004年11月 2005年6月 2005年9月 2005年12月	これら4回の講演会では、大学進学や就職を希望する高校生がどのように「国際理解や国際交流を深める」べきか、或いは「外国人から見た人権教育とは何か」、「平和とは何か」という問題について、自身の体験をもとに講演した。また、高校生や大学生が身近にいる留学生との交流を通して「平和」と「共存」について理解し、自らできることは何かを考え、見つけ、行動することが「国際理解」の出発点であることについて質疑応答をまじえて議論した。

## II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
<b>〈著書〉</b> 1. 帰国運動とは何だったのか 2. 回想の浅川兄弟	共著 共編著	2005年5月 2005年9月	平凡社 草風館	高崎 宗司、朴 正 鎮 高崎 宗司、深澤 美恵子	235-267 325-339 295-305
<b>〈学術論文〉</b> 1. 浅川 巧－その異文化理解モデルの今日的意義－ 2. キリスト者浅川 巧の苦悩－その宗教観を中心に－ 3. 浅川 伯教と朝鮮 4. 浅川 伯教の朝鮮工芸論 5. 在朝鮮日本人 浅川 伯教・巧兄弟の朝鮮理解 6. 浅川 伯教・巧兄弟の朝鮮理解に関する研究 7. 浅川 伯教・巧兄弟の朝鮮理解の意義	単著 単著 単著 単著 単著 単著 単著	2003年3月 2004年3月 2005年3月 2006年3月 2007年10月 2007年 2008年3月	お茶の水女子大学大学院「人間文化論叢」第5巻 お茶の水女子大学大学院「人間文化論叢」第6巻 お茶の水女子大学大学院「人間文化論叢」第7巻 お茶の水女子大学大学院「人間文化論叢」第8巻 朝鮮学報(朝鮮学会誌第205輯) お茶の水女子大学大学院人文科学博士学位論文(博甲第518号) お茶の水女子大学大学院「人間創成科学論叢」第10巻		243-252 177-186 315-324 249-258 137-170 1-10
<b>〈その他〉</b> ○訳書 1. 韓洪九の韓国現代	共訳	2003年12月	平凡社	高崎 宗司	252-292

史Ⅰ－韓国とはどう いう国か					
2. 韓洪九の韓国現代 史Ⅱ－負の歴史から 何を学ぶのか	共訳	2005年7月	平凡社	高崎 宗司	286-318

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2006年2月～現在	宇都宮大学国際学部及び国際学研究科外部評価委員

職名 助教	氏名 青井 久	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	---------	------------------------

## I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 北海道大学全学教育科目授業アンケート (科目:微分積分学2)	2003年～ 2004年	北海道大学で行われた全学教育科目授業アンケートの実施に協力した。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 (1) (社)日本私立大学連盟主催「平成20年度 FD推進会議(新任専任教員向け)」参加	2008年8月 5日～6日	FDと大学教員の職能開発をテーマとする会議に参加し、自身の授業実践に係る研修等を行った。

## II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
<著書> 特になし					
<学術論文> 1. Construction of a canonical subfactor for an inclusion of factors with a common Cartan subalgebra	共著	2003年	Hokkaido Mathematical Journal Vol. 32	青井 久、山ノ内 毅彦	41-58
2. A construction of equivalence subrelations for intermediate subalgebras	単著	2003年	Journal of the Mathematical Society of Japan Vol. 55		713-725
3. A characteriza- tion of coactions whose fixed-point algebras contain special maximal abelian-*subalgebras	共著	2006年	Ergodic Theory and Dynamical Systems Vol. 26 no. 6	青井 久、山ノ内 毅彦	1673-1706
4. On the normali- zing groupoids and the commensura- bility groupoids for inclusions of factors associated to ergodic equivalence rela- tions-subrelations	共著	2006年	Journal of Functional Analysis Vol. 240	青井 久、山ノ内 毅彦	297-333

5. A characterization of a coaction reduced to that of a closed subgroup	単著	2008年	Tokyo Journal of Mathematics Vol.20 no.2		311-324
〈その他〉 特になし					

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2004年9月	日本数学会2004年度秋期総合分科会講演（於・北海道大学）
2006年10月～現在	上智大学秋期社会人講座（「実験から始まる数学」）担当

職名 助教	氏名 太田 沙緒梨	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	-----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) 2007年度担当授業における工夫	2007年4月 ～2008年3月	「心理学概論」及び「心理学研究法」では、学生の講義内容の理解度を高める工夫として、リアクションペーパーを活用し、理解が不十分な点及び疑問点に対しては次回講義の最初にフィードバックを行った。「心理臨床演習」では講義に加えてワークを積極的に取り入れることで、体験的な理解が進むよう工夫した。「心理学研究法」では、学生各自が研究計画を作成することを最終目標とすることで、講義への参加意欲を高めるよう授業構成に工夫を施した。
2 作成した教科書、教材、参考書 特になし		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) 山梨県子ども健康支援モデル事業講師  (2) 山梨県中北保健所連絡会講師	2007年11月17日  2008年2月19日	保育園において、保護者対象に乳幼児の心の発達についての講演を行った。  保健師を対象に、愛着の発達についての講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の名 称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 1. ①親離れ ②青春期の嵐 ③自分探しと自己確立 ④家族の病 ⑤ケアと支援の現場②教育現場	共著	2008年7月	徹底図解心理学ー生活と社会に役立つ心理学ー	青木 紀久代、神宮英夫	①100-101 ②102-103 ③104-105  ④184-185 ⑤206-207
〈学術論文〉 1. フィリピンセブシティにおける貧困層を対象とした子育て支援研究～第1回調査の経過報告～  2. フィリピン・セブ島スラム街の就学前児童の養育者に対する養育スキルに向上を目指した親教育プログラムの効果研究	共著  単著	2004年4月  2007年1月	21世紀COEプログラム 「誕生から死までの人間発達科学 家庭・学校・地域における発達危機の診断と臨床支援総合報告書第1集」  平成16・17・18年度公募研究成果論文集 お茶の水女子大学21世紀COEプログラム 「誕生から死までの人間発達科学」	青木 紀久代、太田沙緒梨、佐伯 邦子、仲野 好重	1-9  71-78
3. フィリピンセブシ	共著	2007年2月	21世紀COEプログラム	青木 紀久代、太田	1-9

ティにおける貧困層を対象とした子育て支援研究～幼児教育プログラム・親教育プログラムの試行的実践の評価～			「誕生から死までの人間発達科学 家庭・学校・地域における発達危機の診断と臨床支援Ⅱ最終総合報告書」	沙緒梨、富田 貴代子、仲野 好重	
〈その他〉					
1. Promoting children and family mental health in Cebu city, Philippines～Assessment for community based support program～	単著	2005年2月	The 2nd Japan-Korea Seminar in Community Psychology, round table session ICU, Tokyo, Japan		
2. 途上国における心理臨床的支援の可能性を探る(1)～家族のメンタルヘルスから～	共著	2005年9月	日本心理臨床学会第24回大会発表論文集	太田 沙緒梨、青木紀久代、富田 貴代子、出蔵 みどり	433
3. 途上国における心理臨床的支援の可能性を探る(2)～発達スクリーニング検査からみた子どもの発達と就学前教育への提案～	共著	2005年9月	日本心理臨床学会第24回大会発表論文集	太田 沙緒梨、青木紀久代、富田 貴代子、出蔵 みどり	434
4. ドメスティック・バイオレンス被害女性への心理的援助に関する研究～二次被害からみた被害女性の援助要請行動と援助期待について～	共著	2005年9月	日本心理学会第69回大会発表論文集	井上 直美、青木紀久代、太田 沙緒梨	384
5. Introducing parenting program into a slum area in the Philippines	単著	2006年2月	The 3rd Japan-Korea Seminar in Community Psychology, round table session Yousei University, Soul, Korea		
6. 途上国における心理臨床的支援の可能性を探る(3)～子どもの生活と教育を支える親教育プログラムの試験的実践報告～	共著	2006年9月	日本心理臨床学会第25回大会発表論文集	太田 沙緒梨、青木紀久代、富田 貴代子	477
7. 途上国における心理臨床的支援の可能	共著	2006年9月	日本心理臨床学会第25回大会発表論文集	太田 沙緒梨、青木紀久代、富田 貴代子	478

性を探る(4)～現地 就学前教育施設での 子どもの生活と教育 を支援するプログラ ムの提案～					
8. コラム⑩アジアで の子育て支援	単著	2007年5月	(株)みらい 「発達心理学～子どもの発 達と子育て支援～」	青木 紀久代 編	163-164
9. 途上国における心 理臨床的支援の可能 性を探る(5)～子ど もの生活と教育を支 える親教育プログラ ムの効果の個別的検 討～	共著	2007年9月	日本心理臨床学会第26回大 会発表論文集	太田 沙緒梨、青木 紀久代、富田 貴代子	485
10. 途上国における 心理臨床的支援の可 能性を探る(6)～就 学前教育施設におけ る発達促進プログラ ムの効果～	共著	2007年9月	日本心理臨床学会第26回大 会発表論文集	太田 沙緒梨、青木 紀久代、富田 貴代 子	486
11. 子どもの愛着形 成不全への心理臨床 的援助(1)～児童福 祉施設における現状 と課題～	共著	2007年12月	日本心理臨床学会第26回大 会発表論文集	南山 今日子、青木 紀久代、馬場 禮 子、繁多 進、四方 耀子、増沢 高、太 田 沙緒梨、三上 健一	432
12. Study on Early Childhood Develop- ment Program in the Philippines: Evaluating Psycho- educational Program for Parents to Support the Children's Life and Education	共著	2008年8月	The Infant Mental Health Journal, Volume29, Issue3A	青木 紀久代、太田 沙緒梨、富田 貴代 子、仲野 好重	76
13. Study on Early Childhood Develop- ment Program in the Philippines: The Effect of the Development and Mental Health Promotion Program in the Nursery School	共著	2008年8月	The Infant Mental Health Journal, Volume29, Issue3A	青木 紀久代、太田 沙緒梨、富田 貴代 子、仲野 好重	76-77
14. Clinical Support for	共著	2008年8月	The Infant Mental Health Journal, Volume29, Issue3A	南山 今日子、青木 紀久代、馬場	22

Children with Attachment Problems:The Present Situation and Issues at Child Welfare Institutions in Japan				禮子、繁多 進、四方 耀子、増沢 高、太田 沙緒梨	
1 5. Clinical Support for Children with Attachment Problems:The Present Situation and Issues Regarding Problem Behaviors and the Approach Adopted Toward Them in Japan	共著	2008年8月	The Infant Mental Health Journal, Volume29, Issue3A	南山 今日子、青木 紀久代、馬場 禮子、繁多 進、四方 耀子、増沢 高、太田 沙緒梨	22-23
1 6. Video04: Practice on Early Child Development (ECD) Program in the Philippines: Exploring the Collaboration Shared Together as Neighborhood Countries	共著	2008年8月	The Infant Mental Health Journal, Volume29, Issue3A	青木 紀久代、太田 沙緒梨、富田 貴代子、仲野 好重	46-47

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2007年11月17日	山梨県子ども健康支援モデル事業講師
2008年2月19日	山梨県中北保健所連絡会講師

職名 助教	氏名 小倉 菜穂子	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
-------	-----------	------------------------

## I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<b>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</b> (1) 大学院「臨床心理実習」及び「臨床心理基礎実習」における心理臨床センター(本学附置施設)実習の運営補助  (2) 山梨英和中学・高等学校「ほっとルーム」における大学院生の実習指導	2004年4月～現在  2004年4月～現在	大学院生が授業の一環で行う実習に際し、電話受付の指導、カンファレンスにおける発表の指導、インテーク面接への陪席による指導などを行った。  大学院生が授業の一環で行う学外教育機関における実際場面での生徒への対応に関する指導及び助言を行った。
<b>2 作成した教科書、教材、参考書</b> 特になし		
<b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b> 特になし		
<b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b> (1) 心理臨床センターにおける臨床活動  (2) 山梨英和中学・高等学校における臨床活動	2004年4月～現在  2004年4月～現在	外来の相談者(クライアント)への初診(インテーク)面接、大学院生が担当困難なケースへの対応、心理検査の担当などを行った。  中学生及び高校生の中で教室に入れない生徒や不登校傾向のある生徒を対象とした「ほっとルーム」における相談相手としての活動を行った。

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ)	該当頁数
<b>〈著書〉</b> 特になし					
<b>〈学術論文〉</b> 1. 少年非行とアンガーマネジメント  2. 指定大学院実習施設としての心理臨床センターの現状と課題－4年間の活動を展望して	共著  単著	2005年3月  2007年3月	千葉大学教育実践研究第12号  山梨英和大学心理臨床センター紀要第2号	小倉 菜穂子、田中 廣司、中村 修、野村 俊明	9-16  83-90
<b>〈その他〉</b> ○心理臨床センター活動報告 1. 2004年度版  2. 2005年度版	単著  単著	2006年3月  2006年3月	山梨英和大学心理臨床センター紀要創刊号  山梨英和大学心理臨床センター紀要創刊号		92-94  95-98

3. 2006年度版	単著	2007年3月	山梨英和大学心理臨床センター紀要第2号		98-101
------------	----	---------	---------------------	--	--------

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

2004年8月～2007年5月	包括システムによる日本ロールシャッハ学会編集事務局員
2006年12月～現在	山梨県臨床心理士会事務局員
2007年5月～現在	包括システムによる日本ロールシャッハ学会編集事務局長

職名 教授	氏名 馬場 禮子	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
-------	----------	------------------------

### I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む) (1) リアクションペーパーの活用	2005年4月 ～現在	授業毎に配付して質問や感想を書かせることでその場では出にくい質問等に積極的に参加させる。
2 作成した教科書、教材、参考書 (1) 「臨床心理学概説」  (2) 「精神分析的な心理療法の実践」	2003年～現在  2005年4月 ～現在	学部で心理学を学んでいない大学院生に手早く全貌を理解させるために作成した。  大学院生のレベルに合わせて精神分析学の基礎を教授するためのテキストとして作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし		
4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし		

### II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
<b>〈著書〉</b>					
1. 改訂版 臨床心理学概説	共著	2003年3月	放送大学教育振興会	馬場 禮子、青木 紀久代、大野 裕、 永井 徹	第1、5、8、9、 11章
2. フロイトー精神分析学の創始者	共著	2005年6月	アカデミア出版会、「心理 群像2」IV臨床・人格・個 人心理学	末永 俊郎、河合 隼雄、木下 富雄、 中島 誠	35-56
3. 家族と個人	単著	2007年6月	創元社、四天王カウンセリ ング講座No. VII	四天王寺監修	81-120
4. 精神分析的な人格理論の基礎知識	単著	2008年7月	岩崎学術出版社		全218頁
<b>〈学術論文〉</b>					
1. 投映法—どう理解し、どう使うか—	単著	2003年7月	金剛出版、「臨床心理学」 通巻16号		447-453
2. いわゆる芸術家における自我機能の〈創造性〉と〈適応性〉—ロールシャッハテストの精神分析的研究(その4)—	単著	2004年10月	岩崎学術出版社、「精神分 析研究選集」第1巻		234、244
3. 心理療法の終わり方について	単著	2004年11月	金剛出版、記憶に残る臨床 体験「臨床心理学」Vol. 4 No. 6 通巻24号		831
4. 乳幼児の情緒発達	単著	2005年5月	「子育て支援講座」第1回		35-44

と情緒障害 臨床心理士の子育 て支援について			講演集		7-11
5. 境界例とその周辺 領域ーロールシャッ ハテストによる精神 力動的研究ー	単著	2005年10月	岩崎学術出版社、「精神分 析研究選集」第2巻		25-48
6. 心理査定	単著	2005年	日本臨床心理士会、「臨床 心理士のための基礎V」		28-40
7. 日本における青年 期用対象関係尺度の 開発	共著	2006年	「パーソナリティ研究」 2006第14巻第2号	井梅 由美子、平井 洋子、青木 紀久代 馬場 禮子	181-193
8. 投映法の力学的解 釈「事例1 人との 距離をうまく保てな い女性」	共著	2006年3月	岩崎学術出版社、「精神分 析研究」第50巻第1号	鈴木 典子、馬場 禮子	7-21
9. 継起分析 対象関係スコア 投映法 どう理解 しどう使うか	単著	2006年9月	創元社、「心理査定 実践 ハンドブック」第II部検査 法1. 投映法		285-288 251-255 220-230
10. 精神分析の実証 研究についてー効果 測定研究を中心に	単著	2008年2月	精神分析研究Vol. 52, No. 1		1-5
<b>〈その他〉</b> ○学会発表論文					
1. 子どもの愛着形成 不全への心理臨床的 援助(1)～児童福祉 施設における現状と 課題～	共著	2007年9月	日本心理臨床学会第26回大 会	南山 今日子、青木 紀久代、馬場 禮子 繁多 進、四方 耀 子、増沢 高、太田 沙緒梨、三上 健一	432
2. 児童虐待対応：多 分野協働と心理臨床	共著	2007年9月	日本心理臨床学会第26回大 会	馬場 禮子、青木 紀久代、繁多 進、 深津 千賀子、増 沢 高、鶴飼 奈 津子、亀口 憲治	14
3. 子どもの愛着形成 不全への心理臨床的 支援～乳児院と児童 養護施設における子 どもの愛着形成の実 態と取り組みの比較 検討～	共著	2007年12月	日本子ども虐待防止学会第 13回学術集会みえ大会	南山 今日子、青木 紀久代、馬場 禮子 繁多 進、四方 耀 子、増沢 高、太田 沙緒梨、木村 恵理	92
4. Clinical Support for Children with Attachment Problems	共著	2008年8月	11th World Congress of the World Association for Infant Mental Health	Minamiyama K. Aoki K. Kimura E., Baba R.	

:The Present Situation and Issues at Child Welfare Institutions in Japan				Hanta S., Yomo Y. Masuzawa T. Ota S.	
5. Clinical Support for Children with Attachment Problems :The Present Situation and Issues Regarding Problem Behaviors and the Approach Adopted Toward Them in Japan	共著	2008年8月	11th World Congress of the World Association for Infant Mental Health	Minamiyama K. Aoki K. Kimura E., Baba R. Hanta S., Yomo Y. Masuzawa T. Ota S.	
○書評					
1. 臨床家のための一冊	単著	2003年5月	金剛出版、前田 重治 著 「『芸』に学ぶ心理面接法 —初心者のための心覚え」 「臨床心理学」第3巻第3号		423-426
○その他					
1. 心理臨床の教育について思うこと	単著	2004年5月	東亜大学大学院総合学術研究科、「臨床心理相談センター紀要」		1-2
2. 「臨床心理事例研究」へのコメント	単著	2003年3月	京都大学大学院教育学研究科、「心理教育相談室紀要 臨床心理事例研究」第32号		12-17
3. 理論を統合するということ	単著	2006年4月	岩崎学術出版社、「学術通信」第82号2006春		2-4
4. 「第2回子育て支援講座」を終わって	単著	2006年8月	日本臨床心理士資格認定協会、「臨床心理士報」第17巻第2号通巻31号		
5. 臨床心理学キーワード 第34回 平等に漂う注意／逆転移／自我機能水準	単著	2006年9月	金剛出版、「臨床心理学」 Vol. 6No. 5 通巻35号		693-695

### Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

〈学会における活動〉	
1987年～現在	(財)日本臨床心理士資格認定協会 常任理事
2005年～現在	日本精神分析学会 編集委員
2006年10月～現在	日本心理臨床学会 常任理事
2006年10月～現在	日本ロールシャッハ学会 理事
〈社会における活動〉	
2003年1月21～22日	家庭裁判所調査官研修会講師 (家裁調査官研修所)
2003年5月11日	茨城臨床心理士会研修会講師 (水戸市)

2003年6月6日	法務省鑑別技官研修会講師（矯正研修所）
2003年6月10～12日	新潟青陵大学大学院集中講義
2003年6月22日	名古屋精神分析セミナー講師（名古屋市）
2003年7月22～24日	大妻女子大学大学院集中講義
2003年7月29～31日	川崎医療大学大学院集中講義
2003年8月1日	日本心理臨床学会基礎研修会講師（名古屋）
2003年8月10日	名古屋精神分析セミナー講師（名古屋市）
2003年8月17日	茨城大学ロールシャッハ研修会講師
2003年8月31日	ロールシャッハ研修会（東京青山こどもの城）
2003年9月14日	日本心理臨床学会シンポジウム座長（京都国際会議場）
2003年9月16日	山口県臨床心理士会研修会講師（東亜大学）
2003年10月1～2日	日本ロールシャッハ学会ワークショップ講師及びシンポジスト（愛知学院大学）
2003年11月28日	島根ロールシャッハ研究会講師（ビッグハート出雲）
2004年1月9～10日	家庭裁判所調査官研修会講師（家裁調査官研修所）
2004年3月14日	山口県保育園協会研修会講師（下関市）
2004年5月2日	島根県臨床心理士会研修会講師（松江ホテル一畑）
2004年5月3日	島根ロールシャッハ研究会講師（ビッグハート出雲）
2004年6月8、10日	法務省鑑別技官研修会講師（矯正研修所）
2004年7月4日	日本ロールシャッハ学会大会発表コメンテーター
2004年7月20～23日	大妻女子大学大学院集中講義（中野臨床心理研究室）
2004年7月27～30日	東亜大学大学院集中講義
2004年8月20～22日	日本心理臨床学会大学院生集会講師（秋田大学）
2004年8月30日～9月3日	九州産業大学大学院集中講義
2004年9月8日	日本心理臨床学会大会ワークショップ講師（東京国際大学）
2004年9月9日	日本心理臨床学会自主シンポジウムコメンテーター（東京国際大学）
2004年9月10日	日本心理臨床学会個人発表コメンテーター（東京国際大学）
2004年9月11日	日本心理臨床学会シンポジウム司会（東京国際フォーラム）
2004年10月1日	日本精神分析学会大会教育研修セミナー講師（東京国際フォーラム）
2004年11月19日	港区教育相談所事例研究会講師（港区教育センター）
2004年11月25～26日	島根ロールシャッハ研究会講師（ビッグハート出雲）
2004年12月21～24日	愛媛大学大学院集中講義
2005年1月6日	家庭裁判所調査官研修会講師（家裁調査官研修所）
2005年1月18～21日	九州産業大学大学院集中講義
2005年1月26日	相州クリニック精神分析研修会
2005年1月27日	港区教育相談所事例研究会講師（港区教育センター）
2005年2月27日	日本臨床心理士会基礎研修講師（仙台）
2005年5月15日	子育て支援研修会講師（お茶の水女子大学）
2005年6月1日	島根ロールシャッハ研究会講師（ビッグハート出雲）
2005年6月14日	法務省鑑別技官研修会講師（矯正研修所）
2005年6月26日	長野県臨床心理士会研修会講師（長野市）
2005年7月13日	山梨県臨床心理士会研修会（住吉病院）
2005年7月15日	東京都立大学大学院事例検討会講師
2005年8月7日	茨城大学臨床心理研修会講師
2005年8月30日～9月1日	九州産業大学大学院集中講義
2005年9月5日	日本心理臨床学会大会ワークショップ講師（京都国際会議場）
2005年9月6日	日本心理臨床学会個人発表座長（京都国際会議場）
2005年10月12日	山梨県臨床心理士会研修会（住吉病院）
2005年10月21日	日本精神分析学会大会教育研修セミナー講師（広島国際会議場）
2005年10月22日	日本精神分析学会大会研修症例助言（広島国際会議場）
2005年10月30日	日本ロールシャッハ学会大会講演（山形市）
2005年12月20～23日	愛媛大学大学院集中講義
2006年1月10日	家庭裁判所調査官研修会講師（家裁調査官研修所）
2006年6月2日	四天王寺カウンスリング講演会講師（大阪四天王寺）
2006年6月18日	子育て支援講座シンポジウム司会（日本教育会館）
2006年7月25～28日	大妻女子大学大学院集中講義（中野臨床心理研究室）

2006年8月29～31日	九州産業大学大学院集中講義
2006年9月6日	山梨県DV被害者支援相談員研修会講師（甲府舞鶴城公園）
2006年9月6日	相州クリニック精神分析研修会
2006年9月11～14日	愛媛大学大学院集中講義
2006年9月16日	日本心理臨床学会個人発表座長及び自主シンポジウム講師（関西大学）
2006年11月14日	島根ロールシャッハ研究会講師（ビッグハート出雲）
2006年11月23日	日本精神分析学会大会教育研修セミナー講師（名古屋国際会議場）
2006年11月24日	日本精神分析学会大会演題指定討論者（名古屋国際会議場）
2006年11月29日	山梨県総合教育課講演会講師（総合教育課こすもす教室）
2007年1月14日	下関ロールシャッハ研究会講師（小郡まきはら病院）
2007年2月18日	東京国際大学大学院研修会講師（東京国際大学早稲田サテライト）
2007年5月22日	出雲ロールシャッハ研究会講師（ビッグハート出雲）
2007年6月5日	法務省矯正研修所研修会講師
2007年7月1日	慶応心理臨床セミナー20周年記念大会企画及びシンポジウム司会（津田ホール）
2007年7月15日	子育て支援講座シンポジウム司会（国立京都国際会館）
2007年11月13日	出雲ロールシャッハ研究会講師（ビッグハート出雲）
2007年11月27日	千葉県暴力被害者支援研修会講師（市川市）
2008年1月27日	相州クリニック研修会講師
2008年2月17日	下関ロールシャッハ研究会講師（小郡まきはら病院）
2008年5月8日	子育て支援講座（大妻女子大学）
2008年6月8日	名古屋精神分析セミナー講師（名古屋市）
2008年7月18日	首都大学東京臨床事例検討会講師
2008年7月25日	茨城ロールシャッハ研究会講師（水戸市）
2008年7月27日	投映法フォーラムシンポジウム司会（東京野口記念会館）
2008年8月10日	北海道臨床心理士会研修会講師（北海道大学学術交流会館）及び北海道教育大学教育改革支援講演会講師（札幌サンプラザ）

職名 教授	氏名 山口 勝弘	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)
-------	----------	------------------------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫(授業評価等含む)</p> <p>(1) 実技学習の導入、学外施設での実習</p>	1999年度～ 現在	<p>山梨大学教育人間科学部及び同大学院障害児教育専攻の授業「障害児心理療法」、「障害児心理学演習」(専門科目、必修、2単位)等々において、児童・生徒及び障害児の治療教育における心理療法の利用に関して、講義を知的学習と体験学習の両面から学習させるべく、ロールプレイやコミュニケーション技法等のエクササイズを導入。集団(学級)運営や指導法の創造に結びつく学習成果を期待した。併せて、発達障害児の治療教育セッションー学外施設ーへの参加の機会(週1回)を提供。月1回のスーパーヴィジョンを実施。対象は学校教育課程(小・中)及び障害児教育専攻の2～4年次生、大学院生。</p> <p>実技学習の導入、学外施設での実習を導入したことで、勉学への内発的動機付け及び自己理解やコミュニケーション能力に顕著な進歩を参加者に見出すことができている。講義ではVTR等の視聴覚教材の利用も併せて行っている。学生による授業評価からは、受講生の満足度が高いように思われる。このことはまた、出欠席を確認しないにもかかわらず、欠席者がほとんど見られないことから推測される。2007年度では、山梨英和大学人間文化学部人間文化学科(心理カウンセリング分野)学生及び教職課程学生に対し、同年から始まった山梨県特別支援教育学生支援員派遣事業(山梨県教育委員会)及び笛吹市教育委員会による学生ボランティア事業の紹介と体験学習の場としての利用について指導。</p>
<p>(2) 論文指導における一貫教育ー個別指導の工夫ー</p>	2003年度～ 現在	<p>卒業論文指導(山梨大学教育人間科学部)においては、3年生の演習から指導を開始し、4年生ではその成果を踏まえて、テーマの設定から始まる論文作成作業に同一教員が担当するシステムを導入。修士論文でも2年間を同一教員が指導を担当。一貫教育を目指して取り組んできた。卒業論文では毎年3～4名を、修士論文(同大学院障害児教育専攻)では1～2名を担当。個別指導の大変さと力強さを学生・教員共に実感している。論文指導と併せ、進路相談、就職支援等の活動も円滑に行うことができている。2007年度、山梨英和大学の卒業研究では専門演習(3年次、必修)と連携して、また修士論文指導では2年間同一教員が担当。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>(1) 障害をもつ子ども達の理解とその教育</p>	1995年4月～ 現在	<p>発達障害児の行動理解と指導の実際について8つの課題を抽出し、事例検討を通して解説したもの。1995年から2007年3月まで山梨大学大学院教育学研究科の「障害児心理学特論」(必</p>

<p>(2) 心理学要説</p> <p>(3) 子どもの発達支援</p>	<p>1999年4月～ 現在</p> <p>2002年7月～ 現在</p>	<p>修、2単位)で、また、2007年4月からは山梨英和大学大学院人間文化研究科の「障害者(児)臨床心理学特論」(選択、2単位)で事例研究のマニュアルとして使用。</p> <p>学習行動の生理学的、心理学的基礎について言及。行動のメカニズムを多角的に捉え、行動の結果起こる適応上の諸問題について言及。1999年4月から2007年3月まで、「障害児臨床心理学特論」(山梨大学特殊教育特別専攻科、必修、2単位)で教科書として使用。</p> <p>子どもの発達支援に際し、必須の知識及び教育の実際について言及した障害児教育のフィールドワークを紹介したもの。2002年10月から2007年3月まで、「障害児教育診断法」(山梨大学教育人間科学部、専門科目、2単位)及び「障害児心理の展望」(同学部入門ゼミ、2単位)で教科書として使用。2007年4月から山梨英和大学で「障害児心理学」(展開応用科目、2単位)及び同大学院人間文化研究科で「障害者(児)臨床心理学特論」(選択、2単位)で参考書として使用。</p>
<p><b>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</b></p> <p>(1) 放送大学山梨学習センターにおける授業での体験学習導入の試み</p>	<p>2004年度～ 現在</p>	<p>「障害児の発達支援」の授業は、定員35名の面接授業(土日型)で、1単位(135分×5回)。講義内容は障害児の実態把握のための教育診断法、発達過程、問題行動の捉え方、治療教育の方法論等について、音声テープ、VTR等の視聴覚教材の利用及び体験学習のためのエクササイズを導入して行っている。山梨大学での担当講義における試みを放送大学での社会人学生にも試み、異なる対象や授業時間数でも試み、同様の成果が得られるかどうかを確認するための実践を行ってきた。多くの受講生から障害児教育の世界を身近なものとして理解できたというフィードバックを毎年受けている。</p>
<p><b>4 その他教育活動上特記すべき事項</b></p> <p>(1) 大学が実施した学生授業評価アンケート調査</p>	<p>1999年度～ 現在</p>	<p>1999年度以降実施している学生による授業評価では、担当する諸授業(履修生10名以上)を通して、「自己と関連づけて理解することが求められているので息抜きができない面があるが具体性に富み、抽象論で終わらない点に新鮮さを感じている」旨のコメントが毎年寄せられている。</p> <p>大学からは教授法の改善に際し、参考にすることを勧める授業の見本のひとつに位置づけられ、学内に通知された(2005年度、2006年度)。</p> <p>2007年度は、山梨英和大学及び同大学院での担当授業に対して、学生授業評価アンケート調査でも同様のコメントが寄せられた。授業に対する満足度についても高い評価が寄せられた。</p>

## II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)等又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ)	該当頁数
〈著書〉 特になし					
〈学術論文〉 1. カウンセラーが 「自己を語る」こ この意味	単著	2005年3月	「山梨大学教育人間科学部 紀要」第6巻2号		260-267
2. 障害児教育臨床に 携わる者に求めら れることー子ども 理解のためにー	単著	2007年2月	「山梨大学障害児教育学研 究紀要」創刊号		1-14
3. 音楽による療法的 手法ーÖBM(邦訳) を中心にー	単著	2007年3月	「山梨大学教育人間科学部 紀要」第8巻		260-273
4. 大学生を対象とす る心の健康教育にお ける風景構成法の利 用ー自己像の変容を 内省する媒体として	共著	2007年3月	「山梨大学教育人間科学部 紀要」第8巻	山口 勝弘、伊藤 美加	252-259
〈その他〉 1. 日本音楽教育事典	共著	2004年3月	音楽の友社(東京)	日本音楽教育学会編	196-197 201-202 (全835頁)

## III 学会等及び社会における主な活動

〈学会等における活動〉	
1970年4月～現在	日本特殊教育学会員
1989年4月～現在	日本心理学会専門別議員
1990年4月～現在	日本心理臨床学会員
2001年4月～現在	日本音楽療法学会員
〈社会における活動〉	
1997年4月～現在	山梨県精神保健協会理事
1997年4月～現在	山梨県社会福祉審議会児童措置審査部会部会長
1998年4月～現在	山梨県臨床心理士会会長
2001年4月～2004年3月	山梨県心身障害児適正就学推進委員会副会長
2004年4月～現在	山梨県心身障害児適正就学推進委員会会長
2004年4月～現在	甲府家庭裁判所委員会委員
2004年4月～2006年3月	山梨県青少年問題協議会委員
2004年4月～現在	山梨県スクールカウンセラー事業(県教委)要請訪問派遣カウンセラー
2005年4月～現在	特別支援教育体制事業広域特別支援連携協議会委員長
2006年6月～2007年3月	山梨県特殊教育振興審議会会長
2006年6月～2007年3月	被害者支援センターやまなし設立準備委員会会長
2007年4月～現在	社団法人被害者支援センターやまなし副理事長兼センター長